

周 恩 來

政府の活動報告

(1959年4月18日、第二期全国
人民代表大会第一回會議にて)

外文出版社

北 京

周 恩 來

政府の活動報告

(1959年4月18日、第二期全国
人民代表大会第一回会議にて)

外 文 出 版 社

北 京

目次

- 一、第一次五カ年計画の期間および第二次五カ年計画の
最初の年——一九五八年における偉大な成果……………三
- 二、第二次五カ年計画の第二年目——
一九五九年における経済戦線でのわれわれの任務……………三三
- 三、文化・教育戦線におけるわれわれの任務……………四六
- 四、国家の政治生活について……………五七
- 五、対外政策について……………七三

政府の活動報告

(一九五九年四月十八日、第二期全国人民代表大会第一回会議にて)

中華人民共和国國務院総理 周 恩 來

代表のみなさん

わたくしはただいまから、國務院の決定にもとづき、第二期全国人民代表大会第一回会議にたいし政府の活動報告をいたします。

一、第一次五カ年計画の期間および第二次五カ年計画の

最初の年——一九五八年における偉大な成果

3 第一期全国人民代表大会の四年余の任期中に、われわれの国家はきわめて大きな歴史的な意義をもつ一連の変化をたどってきました。

一九五四年、第一期全国人民代表大会第一回会議がひらかれたさい、わが国の社会主義経済はすでに国民経済のなかで主導的な地位をしめていましたが、しかし、わが国にはまだ多くの資本主義的工商業がのこっており、そのうえ個人経営の農業と手工業も多数のこつていました。農村における労働互助運動はひろく発展をみ、農業労働互助組に加入した農家は六〇パーセント前後をしましたが、しかし、農業生産協同組合をつくつていた農家はまだ農家総数の二パーセント前後にすぎませんでした。そのころ、わが国は経済回復期の任務をすでになしとげ、大規模の計画的な経済建設をはじめていました。しかし、われわれがわりあい短かな期間に、わが国のような六億あまりの人口を擁する大国にはたして社会主義的工業化の土台をうちたてうるかどうかにつきましては、やはりまだ事実の証明をまたなければなりません。ところが、いまはどうでしょうか？ 周知のように、わずか四年あまりの期間に、わが国の人民は、中国共産党と毛沢東主席の指導のもとに、社会主義革命と社会主義建設の面で、なんと輝かしい成果をおさめたことでしょうか！

一九五五年と一九五六年には、われわれの国家は資本主義的工商業と農業、手工業にたいし

て全面的な社会主義的改造をおこない、生産手段の所有制の面における社会主義革命の任務を基本的に完成いたしました。現在では、ごく一部の少数民族地区をのぞき、わが国には基本的にただふたつの生産手段の所有制があります。つまり、社会主義的な全人民的所有制と社会主義的な集団的所有制があります。一九五七年と一九五八年の上半期には、わが国の人民はまた、全人民的な整風運動と反右派闘争をおこない、思想戦線と政治戦線の面で社会主義革命の偉大な勝利をかちとりました。このようにして、ふたつの道の闘いのなかで、社会主義は各方面で基本的に資本主義にうち勝つたのであります。

わが国の社会主義建設は、社会主義革命と同時にすすめられ、たがいに促進しあつてきたものであります。一九五三年から一九五七年にかけて、わが国は、国民経済発展のための第一次五カ年計画を遂行しました。われわれがこの計画を提出したとき、帝国主義者は、それはかならず失敗におわる幻想だと公言したものであります。しかし、実際には、われわれは一九五七年にこの計画を超過完遂し、さらにまた、これを土台として、一九五八年からいつそう雄大な第二次五カ年計画にとりかかつていたのであります。

第一次五カ年計画の完遂および超過完遂により、わが国の工農業生産総額は、一九五七年には一三八七億四〇〇〇万元にたつし、一九五二年の八二七億一〇〇〇万元に比べて六八パーセントふえました。そのうち、工業生産総額は六五〇億二〇〇〇万元で、一九五二年の二七〇億一〇〇〇万元に比べて一四一パーセントふえ、手工業生産総額は一三三億七〇〇〇万元で、一九五二年の七三億一〇〇〇万元に比べて八三パーセントふえ、農業生産総額は六〇三億五〇〇〇万元で、一九五二年の四八三億九〇〇〇万元に比べて二五パーセントふえています。

(注) 第一次五カ年計画の期間における工農業生産額は、一九五二年の価格を不変価格として計算されたものである。ここにかかげられた一九五七年および一九五二年の工農業生産額は、そうした計算によるものである。

一九五七年には、工農業生産品のいちぶについて価格の調整がおこなわれたため、第二次五カ年計画の期間における工農業生産額は、いずれも一九五七年の価格を不変価格として計算することにあられた。ゆえに、一九五七年と第二次五カ年計画の各年度をくらべるさいには、一九五七年の価格にも

とづいて計算すべきである。そうすると、一九五七年の工農業生産総額は一二四一億元、工業および手工業の生産総額は七〇四億元、農業生産総額は五三七億元とすべきである。

第一次五カ年計画の期間に、経済および文化部門の基本建設にたいする国家の投資総額は合計四九三億元で、もとの計画四二七億四〇〇〇万元を一五・三パーセントうまわっています。この五年間に施工された工鉦業の建設項目は一万をこえますが、そのうち投資基準額以上のものは九二一で、計画にきめられていた項目より二二七多くなっています。一九五七年末までに、完成またはいちぶ完成をみ、操業をはじめた投資基準額以上の工鉦業の建設項目は五三七となつています。

第一次五カ年計画が完遂されたことによつて、われわれは、もともとある工業部門を大いに強化したばかりでなく、いぜんにはなかつた多くの工業部門、たとえば冶金設備の製造、鉦山設備の製造、発電設備の製造、飛行機の製造、自動車の製造、新型工作機械の製造および高級合金鋼の精錬、重要有色金属の精錬などを確立するようになりました。技術力もめざましい増大をしめました。一九五七年には、全国の工業関係の技師、技術員は一七万五〇〇〇人にた

つし、一九五二年の五万八〇〇〇人にくらべて三倍にふえており、工業および基本建設関係の労働者・職員は一〇一九万人にたつし、一九五二年の六一五万人にくらべて六六パーセントふえています。工業製品の生産量の増加と品種の増加によつて、工業用材料と設備の自給率も高まり、たとえば一九五七年の鋼材の自給能力は八六パーセント、機械設備の自給率は六〇パーセント以上になつています。

また、工業と農業、重工業と軽工業の比重にもきわめて大きな変化が生じました。工業生産総額のなかで工業と手工業のしめる比重は、一九五二年の四一・五パーセントから一九五七年には五六・五パーセントにふえています。工業生産総額のなかで生産財工業のしめる比重は、一九五二年の三九・七パーセントから一九五七年には五二・八パーセントにふえています。

ですから、第一次五カ年計画の完遂および超過完遂によつて、わが国は社会主義的工業化の一応の土台をうちたてたということができるのであります。

第二次五カ年計画の最初の年、すなわち一九五八年には、わが国の歴史上かつてない国民経済の大躍進がみられました。

一九五八年のわが国の工業生産総額は二〇五〇億元にたつし、一九五七年の一二四一億元にくらべて六五パーセントふえました。そのうち、工業および手工業の生産総額は一一七〇億元で、一九五七年の七〇四億元にくらべて六六パーセントふえ、銑鉄、鋼鉄、石炭、発電設備、機関車、自動車、動力機械などの製品の生産量はいずれも一九五七年の倍以上にふえています。なお、銑鉄と鋼鉄のなかには旧式の方法でつくつた銑鉄と鋼鉄のいちぶがふくまれています。農業生産総額は八八〇億元にたつし、一九五七年の五三七億元にくらべて六四パーセントふえ、食糧、綿花、葉煙草などの收穫高はいずれも一九五七年の二倍以上にふえています。国家予算から支出された基本建設への投資総額は二一四億元にたつし、一九五七年の一二六億元にくらべて七〇パーセントふえています。

多くの工業生産物の生産量では、一九五八年の一年間にふえた量は一九五七年の一九五二年にたいする増加量をうまわりました。たとえば、一九五七年を一九五二年とくらべますと、鋼鉄は四〇〇万トン、石炭は六四〇〇万トン、工作機械(簡易なもの)はふくまない、以下

おなじ)は一万四三〇〇台、食糧は六一二億斤(三〇六〇万トン)註、以下おなじ)、綿花は六七三万担(三三万六五〇〇トン)それぞれ増加をしていますが、一九五八年を一九五七年とくらべますと、鋼鉄は五七三万トン、石炭は一億四〇〇〇万トン、工作機械は二万二〇〇〇台、食糧は三八〇〇億斤(一億九〇〇〇万トン)、綿花は三三五八万担(二六七万九〇〇〇トン)それぞれ増加をめています。

工業と農業の躍進とともに、運輸、郵便・電信・電話、商業、文化・教育事業の面でもきわめて大きな躍進がみられました。

一九五八年の大躍進のなかで、わが国の人民は社会組織の面で偉大な創造をおこないました。つまり、全国の農村で広はんな農民の要求にもとつきうちたてられた人民公社がそれであります。全国の一億二〇〇〇万戸の農民は、農業生産の協同化を土台とし、それをさらに一歩おしすすめて二万六〇〇〇をこえる大規模な、工業、農業、商業、文化・教育、軍事をむすびあわせた、行政と社務とが合体した人民公社を組織しました。人民公社というこの組織形態は、わが国の工農業生産の大規模な発展の必要にこたえて出現したものであります。それは、

こんどわが国の社会経済の発展にとつてきわめて大きな意義をもつでしょう。わが国の条件のもとでは、それは生産力をひきつづき発展させ、社会主義建設をはやめる最良の形態であるばかりでなく、やがて全国の農村が社会主義的な集団的所有制から全人民的所有制へ移行し、社会主義社会から共産主義社会へ移行する最良の形態でもあります。

一九五八年における国民経済の発展は、あきらかに、ありふれた前進ではなく、巨大な、全面的な躍進であります。

わが国の国民経済の発展テンポは、資本主義制度のもとではみられなかつたものであり、また、ありうべからざるものでもあります。鋼鉄についていいますと、イギリスははやくも一八八〇年にはすでに年産一三二万トンにたつていましたが、一九三五年になつてやつと年産一〇〇二万トンにふえました。わが国の鋼鉄生産量は、一九五二年に一三五万トンだつたのが、一九五八年には一一〇八万トンにふえています。つまり鋼鉄生産量の点では、イギリスが五十年かかつて歩いた道をわれわれはわずか六年しかかからなかつたわけであります。石炭についてもいいますと、イギリスははやくも一八五四年にはすでに六五七〇万トンの出炭量をあげて

おり、これはわが国の一九五二年における出炭量六四九万トンの水準とほぼおなじものです。それから五十余年の年月を経て、一九〇七年にイギリスの出炭量はやつと二億七〇〇万トンにたつたのですが、わが国はこれまたわずか六カ年という期間をついやしただけで一九五八年にはその水準にたつたのであります。イギリスの出炭量は、二十世紀の初期に二回ほど三億トンの線にせまつたことがあります。ここ二十余年來つと低下か停滞の状態をしめしており、一九五八年にはわずか二億二〇〇〇万トン前後にすぎず、すでにわが国の後塵を拜しているありさまであります。

帝国主義者、とりわけアメリカ帝国主義者は、かつてわが国の国民経済の大躍進を抹殺しようとして躍起になりました。それというのも、この事實は社会主義の優越性にたいする全世界の人民の信念をつよめ、資本主義制度にたいする人びとの疑いの念をつよめるにちがいないことをかれらが知っていたからであります。大躍進の事實を否定することができなくなると、かれらは、こんどはわれわれの大躍進にたいしさまざまな歪曲と中傷をくわえはじめました。かれらがいかに脳味噌をしぼろうとも、とどのつまりその目的をとげることができません。かれら

は、われわれのところでは奴隷労働がおこなわれているとさわぎたてています。もともと、労働者や農民が自分たちの幸せのために自発的意志にもとづいて積極的に働いているのを「奴隷労働」などといい、飢餓におびやかされてやむなく資本家や地主のため牛馬のように追い使われているのを逆に「自由労働」などといっているのです。しかし、西方の世界の広はんな、いわゆる「自由」な労働者のあいだには憂いと苦しみがみちあふれ、社会主義のいわゆる「奴隷」労働者のあいだには欲びと望みがみちあふれているのは一体どうしてでしょうか？ かれらは、われわれのところでは広はんな人民の生活福祉が犠牲にされているとのべたてています。ところが、資本主義世界ではいたるところで失業がみられるのに、社会主義制度は逆にわが国の旧社会が長期にわたりのこしてきた失業をすつかり一掃したばかりか、わが国の六億をこえる人民の生活水準を生産の発展にともないしだいにひきあげることさえ保証しているのではありません。一九五八年の大躍進のなかで、全国の労働者・職員の年間平均人数は前年にくらべて約八〇〇万人ふえており、都市における就業面の拡大はかつてみない程度にたつし、農村では広はんな婦人の労働力がこれまた家事の労働から解放されて農業生産にくわりました。

しかし、工業生産の全面的な躍進にひきかえ、わが国の機械化の速度はそれほどのはやさをしめることができないため、都市と農村の労働力はやはり不足を感じているのであります。わが国の人民の所得はいちじるしくふえ、社会の購買力は大いに高まり、一般商品小賣総額は前年より一六パーセントふえました。とくに指摘しておかなければならないのは、われわれの生産財工業の躍進にさいし、消費財工業の生産額も一九五八年の一年間にやはり三四パーセントふえたことであります。このような増加速度は資本主義世界にかつてみられたでしょうか？

まあ、西方のブルジョアジーの旦那方にはわめかせておくがよいでしょう。われわれの労働者と農民は、失業と飢餓の自由を失ったほかに、なにひとつ失つてはいないのであります。

われわれの大躍進の原因は、帝国主義者にはわからないし、また、わかろうともしていません。われわれの大躍進の原因は、いったいどこにあるのでしょうか？

一九五八年の大躍進は、わが国の社会主義革命の勝利と第一次五カ年計画の完遂という土台のうえに出現したものであります。わが国がながいあいだ経済的にも文化的にも「貧しくて白紙」であつたのは、われわれに人力と天然資源が欠けていたためではなく、生産力の発展の必

要に適應できる社会制度が欠けていたからであります。周知のように、わが国は人口の多い、資源のゆたかな、氣候条件のよい国であつて、こうしたことは生産力の発展にはきわめて有利であります。ところが、人口の条件と地理的な条件がおなじであつても、半植民地・半封建的な旧中国では躍進などということは根本的に不可能であつたばかりでなく、解放後でも、資本主義的工商業と単独経営の農業、手工業にたいする社会主義的改造がおこなわれるまえ、政治戦線、思想戦線での革命的な勝利が勝ちとられるまえには、一九五八年のような大躍進はやはりおこりえなかつたのであります。同時に、第一次五カ年計画を完遂し、大がかりな現代化した中核企業を多数建設し、新しい技術を身につけた多くの人材を養成したことによつて、われわれはすでにわりあい大型の技術的にもかなり複雑な工業企業、たとえば年産一五〇万トンの鋼鉄を生産する鉄鋼コンビナート、年産二四〇万トンの炭鉱、設備容量一〇〇万キロワットの水力発電所および六五万キロワットの火力発電所などを自力で設計し建設しうるようになりました。もしも、こうした物質的技術的な土台がなかつたならば、われわれとても一九五八年の大躍進を実現することはできなかつたでしょう。

しかし、一九五八年の大躍進のもつとも重要な原因は、一九五八年の春にわれわれが第一次五カ年計画の経験をまとめ、わが国の社会主義建設のよりよい方法を見だし、大いに意氣込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設するという総路線をさだめたことであります。中国共産党中央と毛沢東主席がさだめたこの総路線は、社会主義革命が勝利したのちにおける六億余の人民の社会主義建設への積極性を十分に見こんだうえで、あらゆる積極的な要素をあまざず動員するという路線であります。一九五八年の大躍進は、この総路線にみちびかれて出現したものにほかなりません。

総路線にもとづき、工業の面では、われわれは重工業を優先的に発展させ、重工業と軽工業を同時に発展させるといふ方針のもとに、鋼鉄をかなめとして、全面的な躍進をとげました。鋼鉄は当面の工業生産と基本建設のもつとも重要な材料であり、わが国の鋼鉄生産量の不足は国民経済全体の発展をさまたげています。したがって、われわれは一九五八年には全人民の力を動員して鋼鉄の増産につとめ、鋼鉄生産量を一九五七年の五三五万トンから一一〇八万トンにふやしました。鋼鉄生産量の躍進は、ただちに石炭工業の躍進を促進し、また、機械工業そ

の他の工業の同時に躍進する条件をもうみだしました。鉄鋼業その他の工業がこうした急テンポな発展をとげえたのは一体どうしてでしょうか？ それは、われわれが工業戦線で中央の工業と地方の工業を同時に発展させ、大型の企業と中・小型の企業を同時に発展させ、現代的な方法による生産と旧式の方法による生産を同時に発展させるという方針をとるとともに、工業管理の面で集中的な指導とさかんに大衆運動をおこすことをむすびつけるという活動方法をとって、こうして、多く、はやく、りつぱに、むだなく工業を発展させるための具体的な道を探して来たからであります。

一九五八年には、われわれは工業建設と工業生産にたいする地方の管理の権限を拡大し、これによつて各級の地方組織と勤労大衆がさかんに工業をおこす積極性を大いに高め、建設の速度をぐつとはやめ、工業の生産量を急速にひきあげました。一九五八年に中央と省、市、自治区とのふたつの級がおこなつた基準額以上の工鉱業企業の新設、拡張は一〇〇〇をこえました。が、そのうち完成またはいちぶ完成をみ、操業をはじめたものは約七〇〇をかぞえ、第一次五カ年計画の期間に完成またはいちぶ完成をみ、操業をはじめた工鉱業企業の総計五三七をうわ

まわつています。省、市、自治区、専区、縣は基準額以下の新旧折衷の工鉱業企業を多数おこしました。これらの工鉱業企業のひとつは、一九五八年内に完成またはいちぶ完成をみ、操業をはじめました。このほか、人民公社でも、だいたい旧式の生産方法をとる工鉱業企業を多数おこしました。これらの建設によつて、わが国の工業生産能力は急速に増大したのであります。

一九五八年の工業の躍進は、主としてもとからある企業の増産によつたものであることはいうまでもありません。もともとある企業は、設備の拡充、人力の増加、管理の改善、設備利用率と労働生産性の向上によつて、生産量を大幅にひきあげました。多くの企業では、労働者が管理に参加し、幹部が生産に参加し、指導者、技術者、労働者大衆が一体となるという方法が実施され、操作法の改善、設備の改良、製品設計の改良、原料、材料の合理的な利用、既存設備の完全利用、新製品の試作と生産、生産組織の改善、不合理な規定、制度の改革をめざす大衆運動が展開され、これによつてもとからある工業企業の生産面の潜在力が大いに発揮されました。

一九五八年の農業戦線での偉大な成果は、これまた社会主義建設の総路線の威力を証明し、工業と農業の同時発展が必要かつ可能であることを証明し、農業が工業とおなじくきわめて急速に発展しうることを証明しました。事実、一九五八年における工農業の躍進も、農業からはじまつたのであります。わが国の農業機械と化学肥料はまだきわめてすくないのですが、農民の積極性を十分に発揮させたのちには、農産物の單位面積あたりの収量をやはり急速にたかめることができます。一九五七年に修正された全国農業発展要綱には、食糧の單位面積あたりの収量を一九六七年までに全国の三類の地区でそれぞれ四〇〇斤（二〇〇キロ）、五〇〇斤（二五〇キロ）、八〇〇斤（四〇〇キロ）にひきあげるといふ指標と綿花の單位面積あたり収量をそれぞれ六〇斤（三〇キロ）、八〇斤（四〇キロ）、一〇〇斤（五〇キロ）にひきあげるといふ指標がきめられています。実際には、一九五八年に全国の多くの縣と市では、農業発展要綱にきめられた食糧の收穫指標を繰上げ実現し、全国の大部分の綿産地でも農業発展要綱にきめられた綿花の收穫指標を繰上げ実現したのであります。一九五八年には食糧、綿花ともに大面積の多收穫豊作田がすくなくならず出現しました。

農民大衆が採用した單位面積あたりの收量をふやす措置は、土（土壌）、肥（肥料）、水（水利）、種（種子）、密（密植）、保（植物の保護）、管（耕地管理）、工（工具の改良）の八つの分野にわたつており、一般に農業の「八字憲章」といわれているものであります。土壌については、深く掘りかえし、土質を改良し、土地を平らかにするというおびただしい仕事がおこなわれました。肥料については、昨年はこれまでよりもはるかにひろく肥料の來源を開拓し、各種の肥料を製造、加工する小型の工場や仕事場が多数建設されました。水利については、一九五八年の全国の灌漑面積は一九五七年にくらべて四億八〇〇〇万ムー（三三〇〇万一六〇〇ヘクタール）つまり九〇パーセント以上ふえています。種子については、米、小麦、綿花などのいくつかの主要作物について基本的に優良種子が普及し、各地区のあいだで優良種子の交流もおこなわれています。密植については、さまざまの程度の密植がひろくおこなわれ、そのうえ合理的な密植の試験のなかですくなくからぬ経験が積みあげられています。植物の保護、病虫害の予防と退治については、おびただしい仕事がおこなわれています。耕地の管理については、一九五八年にはめざましい成果をあげました。各地で豊作田、実験田がひろくつくら

れ、いちぶの地方では耕作の園芸化が試験的に実施されましたが、これらはいずれも農業の技術改革に積極的な推進的役割をはたしました。工具の改良については、全国的に一応の発展をあげました。運搬の車輛化とボール・ベアリングの普及は農民からよろこびむかえられ、各種の新型農具の発明や創造が大量に生まれています。

工農業の面できざまな増産措置が普及され効果をあげたのは、整風運動によつてうまれた党と大衆との密接なつながりや大衆の社会主義的自覚の向上ときりはなしては考えられませんが、党委員会の指導と政治がいつさいを統率するという原則は、すでに広はん大衆にうけいれられています。幹部が肉体労働に参加し、幹部が実験田をつくり、幹部が生産現場におり、幹部が大衆とともに食事をし、生活し、労働するといった方法が全国的に実行され、労働者と農民の労働意欲を大いにふるいたたせています。各戦線では、一連の措置をこうじて、保守的な考えかたに反対し、盲信を打破し、共産主義的風格を提唱し、大胆に考え、大胆に言い、大胆にやつてのけ、大胆に発明、創造することを提唱し、視察・評定をおこない、社会主義的な競争と協力をくりひろげました。こうしたことはすべて生産、建設の高まりを力づくよくおしす

すめ、国民経済の全面的な躍進の実現を保証したのであります。

わが国の社会主義建設の事業のなかで、偉大なソ連を先頭とする社会主義陣営諸国はわれわれに多方面の援助をあたえてくれました。わが国の第一次五カ年計画の期間にソ連の援助でわれわれが建設した一六六の重要な建設項目は、わが国の経済建設の発展にめざましい役割をはたしました。ソ連の建国いらいのゆたかな経験は、これまた、われわれが経済建設計画を作成、実現してゆくうえでの重要なよりどころとなつていきます。

われわれの成績はきわめて大きなものです。しかしながら、六億余の人口を擁する国についていえば、わが国の工業がいま到達している水準はやはりひじょうに低いものであります。経済の発展と人民の生活改善のうえでのぼう大な需要をみたすには、われわれはひきつづき刻苦奮闘しなければなりません。われわれが社会主義の建設をすすめた時間はまだごく短かのものであり、党の提出した社会主義建設の総路線を實行した時間はそれよりもさらに短かいのです。われわれの経験はまだひじょうにとぼしく、活動のなかでの欠点もまだすくなくありませんから、ひきつづき虚心に学んでゆくべきであつて、うぬぼれてよい理由はまったくないので

あります。われわれは、一九五八年の巨大な勝利を土台として、一九五八年にきりひらいた道にそつて躍進しつづけ、一九五九年の各戦線におけるいつそう大きな勝利をかちとるよう努力しなければなりません。

二、第二次五カ年計画の第二年目――

一九五九年における経済戦線でのわれわれの任務

一九五九年は、わが国の人民が社会主義建設の総路線にみちびかれて、国民経済発展のための第二次五カ年計画を遂行する第二年目にあたります。一九五八年十一月にひらかれた中国共産党第八期中央委員会第六回総会では、一九五九年における国民経済発展のためのおもな任務と方針が討議され、鋼鉄生産量一八〇〇万トン、出炭量三億八〇〇〇万トン、食糧收穫高一兆五〇〇億斤（五億二五〇〇万トン）、綿花收穫高一億担（五〇〇万トン）という四つの指標が提出されました。今年の四月のはじめ、中国共産党第八期中央委員会第七回総会では、これらの指標と今年の第一・四半期における生産および建設の状況にもとづいて、一九五九年度国民経済

計画草案が採択されました。この草案は、すでに内務院で採択され、今回の人民代表大会に提出して審議、決定されることになっていきます。われわれは、今年の全国人民のおもな任務は、積極的に努力して、この四大指標を中心とする国民経済計画の完遂、超過完遂のために奮闘することであると考えています。

一九五九年の国民経済計画は、ひきつづき大躍進をとげる計画であります。計画草案をみてもわかりますように、一九五九年の工業生産総額は一九五八年の二〇五〇億元にくらべ四〇パーセントふえて、二八七〇億元となっており、そのうち、工業と手工業の生産総額は一六五〇億元、農業の生産総額は一二二〇億元となっています。三二品目のおもな工業製品のうち、五〇パーセント以上生産量のふえるものは銑鉄、鋼鉄、原油、硫酸、化学肥料、抗生物質、発電設備、機関車、貨車、トラクター、コンバイン、動力脱穀機、動力機械、綿紡績機械、製紙設備、製糖設備、砂糖などの一七品目であり、その他の製品もごくわずかな品目をのぞき、生産量が三〇パーセント以上ふえることになっています。いちぶの製品の生産量は、二倍ないし数倍にふえます。たとえば発電設備など、一九五八年にはわが国では八〇万キロワット生産し

たにすぎませんでした。一九五九年には二八〇万ないし三〇〇万キロワット生産することになり、増加率は二五〇パーセントないし二七五パーセントとなっています。おもな農産物のうち、生産高が四〇パーセント以上ふえるものは食糧、綿花、黄麻、洋麻、甘蔗、甜菜、落花生、なたねおよび豚の飼育頭数であります。

一九五九年の基本建設への投資総額は、国家予算から支出される部分が二七〇億元と定められ、一九五八年の二一四億元にくらべ二六パーセントふえています。ことし建設される基準額以上の項目は合計一〇九二で、そのなかには鉄鋼企業五一、有色金属企業三三、機械製造企業一五四、発電所一八四、石炭企業八三、採油、精油企業一九、化学工業企業五三、建築材料企業と伐採企業一〇五、軽工業企業一六一、水利工事二八、新しい鉄道幹線、複線、支線および企業の専用線五五〇〇キロなどがふくまれています。これらの基準額以上の建設項目にたいす投資額は、一年間の投資総額の約三分の二をしめています。その他の投資は、基準額以下の多数の建設項目にふりあてられることになっています。

工業生産と基本建設の急速な発展に必要な輸送条件を提供するため、計画には、一九五九

年における鉄道の貨物輸送量が五億二〇〇〇万トンにたつし、一九五八年の三億八〇〇〇万トンにくらべて三六パーセントふえ、交通部直属企業の貨物輸送量が三五〇〇万トンにたつし、一九五八年の二八〇〇万トンにくらべて二五パーセントふえることが規定されています。農業と軽工業の生産がひきつづき躍進することを土台として、計画には、一九五九年の一般商品小賣総額が六五〇億元にたつし、一九五八年の五四八億元にくらべて一九パーセントふえることが規定されています。

一九五九年の計画は、大いに意氣込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設するという党の総路線にもとづいて作成されたものであり、重工業を優先的に発展させることを基礎として、工業と農業を同時に発展させ、重工業と軽工業を同時に発展させ、中央の工業と地方の工業を同時に発展させ、大型企業と中・小型企業を同時に発展させ、現代的方法による生産と旧式の方法による生産を同時に発展させるという一組の「二本の足で歩く」方針にもとづいて作成されたものであります。この計画は、わが国の物質的、技術的条件の客観的な可能性も考慮にいれていますし、人民大衆の革命的な労働意欲の主

観的な能動性も考慮にいれています。また、工業と農業、重工業と軽工業、生産と輸送が発展の過程でたがいに適応しなければならぬという要求についても考慮をはらっていますし、建設にはかならず重点がなければならず、かならず優先的に重工業を発展させ、まず第一に原料、材料をつくる工業を発展させ、鋼鉄をかなめとしなければならないという方針も堅持しています。一八〇〇万トンの鋼鉄を生産することこそ、工業戦線でのひとつとも重要な任務であります。この任務を実現するため、計画のなかでは、可能な条件にもとづいて、銑鉄、石炭、電力の生産指標と輸送の指標をひきあげることにとともに、機械工業にたいしては採鉱設備、洗炭設備、コークス炉、圧延設備、発電設備および輸送設備を早急に製造するという任務が規定されています。原料、材料をつくる工業と動力工業が加工工業よりたちおくられているという状況をあらためるため、われわれは、鋼材、銅、アルミニウム、硫酸、電力などの生産量の増加速度をひきあげました。重工業と軽工業を同時に発展させるという要求にもとづき、計画には、一九五九年の生産手段の生産を四六パーセントふやし、消費物資の生産を三四パーセントふやすことが規定されています。人民の生活に欠くことのできないもの、とりわけ過去の

ある時期に生産の不足をつげたいちぶの日用工業製品の増産については、計画のなかにすべてそれを規定しました。工業と農業を同時に発展させるといふ要求にもとづき、計画には、一九五九年の工業および手工業の生産総額を一九五八年より四一パーセントふやし、農業生産総額を一九五八年より三九パーセントふやすことが規定されています。各種の農産物と畜産物の増産を軽工業の発展、人民の生活水準の向上といつた状況に適応させるため、一九五九年には、食糧および綿花の生産のたえまない大躍進を保証するという前提のもとに、麻類、甘蔗、なたねなどの作物と豚、牛、馬などの家畜の増加速度をひきあげました。工業も農業にたいする支援をつよめ、農業により多くの排水・灌漑機械、トラクター、コンバイン、動力脱穀機、ゴムタイヤ付手おし車、化学肥料および農薬を供給することになっていきます。

一九五九年の雄大な国民経済発展計画を実現すれば、わが国の社会主義の物質的基礎はひきつづき拡大し、わが国の工業のたえまない躍進と農業の機械化のためより多くの条件がそなわり、全国農業発展要綱の食糧、綿花の増産にかんする要求が繰上げ超過完遂され、人民の物質的生活水準がひきつづき向上するための保証がえられることとなるでしょう。

一九五九年の計画にきめられている指標の前年にたいする増加率のうちには、一九五八年の前年度にたいする増加率をうわまわっているものがすくなくありません。たとえば、発電量、硫酸、化学肥料、貨車、綿紡績機械、綿糸、綿布、紙、食用植物油、砂糖などの工業製品と黄麻、洋麻、甘蔗、なたね、大家畜、豚などの農産物がいずれもそれであります。いちぶの生産物には一九五九年の計画生産量の増加率が一九五八年よりひくいものもありますが、しかし、増加の絶対量では一九五八年をうわまわっています。たとえば、鋼鉄の生産量のばあい、一九五八年は一九五七年より一〇七パーセントつまり五七三万トンふえています。一九五九年は一九五八年の六二パーセント増となつていながらもかかわらず、増加の絶対量は六九二万トンとなつていきます。工業生産総額のばあいも同様です。一九五八年は一九五七年より六五パーセントつまり八〇九億元ふえています。一九五九年は一九五八年の四〇パーセント増となつていながらもかかわらず、増加の絶対額は八二〇億元となつていきます。この点からみても、増加のテンポをみるには、ただパーセントだけを見るのではなく、同時に絶対数をみなければならぬといふことがわかります。もしも工業生産総額やすべての生産物の生産量について、

毎年の増加率が前年より高いばあいにはじめて躍進だとみなすなら、それは実際にそぐわない考え方であります。

そればかりでなく、いちぶの工業生産物、とりわけいちぶの農産物のなかには、躍進の過程であとの年の増産量がまえの年の増産量より低いこともありうるのであります。一九五九年の計画は食糧の四〇パーセント増産を要求していますが、これは疑いもなくひじょうに高い、歴史生まれにみるテンポであります。食糧の増産は自然条件によつて大きな制約をうけるものであり、年々倍の増産をあげるとか、すべてが一九五八年とおなじ増産高をあげるとかいつたことは不可能であるということを知つておかなければなりません。農業機械と化学肥料がまだひじょうにすくない条件のもとでは、年々二〇パーセントないし二〇パーセントの増産でも、十分に躍進とみなしてよいのであります。一九五九年の食糧増産の絶対量は三〇〇〇億斤（二億五〇〇〇万トン）となつていますが、これはまことにばう大な数字であります。周知のように、わが国の食糧の総收穫高は解放まえにもつとも收穫高の多かつた一九三六年でも二七七四億斤（二億三八七〇万トン）にすぎませんでした。解放で、経済がたちなおつた一九五二年でも三〇八八

億斤（二億五四四〇万トン）どまりでした。第一次五カ年計画の期間における努力によつて、一九五七年にやつと三七〇〇億斤（二億八五〇〇万トン）にたつことができたのであります。いま、われわれは、一九五八年の増産量三八〇〇億斤（二億九〇〇〇万トン）を土台とし、さらに食糧三〇〇〇億斤（二億五〇〇〇万トン）を増産しようとしています。これはひじょうに大きな努力をはらつてはじめて実現しうる躍進計画であることはいうまでもありません。

（注）ここにあげられた各年度の食糧の総收穫高は、いずれも大豆の收穫高を控除したものである。

テンポのきわめてはやい、規模の雄大な一九五九年の計画を実現するためには、全国の人民は、ひきつづき勇敢に奮闘し、全力をうちこみ、困難にめげず、巧妙にやりとげ、困難の克服にとつとめなければなりません。国民経済の大きな発展のなかでは困難がないなどということはありません。当面の一時期は、多くの重要な原料、材料、電力および輸送力が国民経済発展の需要に追いつかないという状況を急速にすつかりあらためることはできません。これはわれわれの直面

する困難のひとつであります。このほか、われわれは予想しえない困難、たとえば農業面でゆいしい自然災害に見舞われる可能性もあります。これらの困難にたいしては、われわれは十分な心構えをもち、全力をつくして克服してゆかなければなりません。われわれに備えがあり、努力して克服してゆきさえすれば、いかなる困難といえどもわれわれが勝利をかちとるのをさまたげることはいないのであります。

われわれには、一九五九年の計画を完遂する有利な条件がたくさんあります。一九五八年の大躍進は、われわれがひきつづき大躍進をとげる全面的な前提をつくりあげました。われわれには、一九五八年よりもいつそう強大な物質的、技術的な土台があります。われわれには、社会の生産力の発展をうながす人民公社があります。六億をこえる人民は、一九五八年における各戦線での勝利によつて、さらに大きな信念と労働意欲、よりゆたかな経験と方法を身につけています。党の社会主義建設の総路線と一組の「二本の足で歩く」方針は、一九五八年の実践をつうじて、より多くの幹部と大衆に把握されています。こうしたことがらはすべてわれわれの有利な条件なのであります。

一九五九年の計画を実現するには、われわれはどのような問題に注意しなければならないでしょうか？ 当面のもつとも重要な問題は、集中的な指導をつよめ、全面的に按排し、それぞれの組織活動と具体的な措置に力点を置き、各経済戦線で大衆運動をさかんに展開するということでもあります。

工業戦線では、とくに集中的な指導をつよめて、中央の力と地方の力、国家の力と大衆の力を十分にむすびつけ、国家の統一的な計画の要求にしたがつて全面的に按排し、なにはともあれまず重点的な建設の需要を保証し、全局的な任務の完遂を保証しなければなりません。

社会主義革命の勝利、社会主義建設の総路線の鼓舞および人民公社化の成功によつて、各地方、各戦線の幹部と大衆の積極性は空前の高まりをみせており、人びとはすべて自分たちに必要な建設事業の急速な発展を要求しています。こうした要求は、まったくもつともなことであり、それはわが国の日ましに繁栄しつつあることをあらわしたものであります。しかしながら、われわれの計画は、かならず客観的な可能性にもとづいてたてなければなりません。われわれのもつ物質的、技術的な土台は、つまるところまだひじょうに弱いものであります。われ

われのもつ物力、財力および人力は、ある重点的な方面の需要をみたせば、その他の各方面の需要をおなじようにみたすわけにはゆかないのです。この矛盾を解決するには、部分は全体に服従し、なによりもまず重点を保證するという原則を採用しなければなりません。われわれは、この原則にもとづいて一九五九年の工業の生産と建設の計画を作成したのであり、われわれはまたこの原則にもとづいてこの計画を遂行してゆかなければならないのであります。および生産と基本建設の任務の調整、重要な原料、材料、設備の配分と調達、企業の従業員との調整、賃金制度の変更、および技術力の按排については、いずれも中央と省、市、自治区との二つの級が確實にそれをにぎり、統一的に指図すべきであります。それぞれの生産、建設の具体的な任務については、その軽重緩急にもとづき、また、原料、材料および設備の供給可能性をも考えあわせて、上から下へとというふうに序列をきめなければなりません。たとえば、機械工業の当面でのものともさし迫つた任務は、計画にきめられた採鉱設備、洗炭設備、コークス炉、圧延設備、発電設備、排水・灌漑用設備、機関車、車輛を早急につくることでもあります。国家が統一的に調達する原料、材料は、まずこれらの設備をつくるうえでの需要にあてられるよう

保証すべきであります。機械製造部門は、これらの設備の製造任務を具体的に按排するさいには、やはりどのような設備とどんな型の設備をさきにつくるかをきめて、時間的にも、品種の点でも重点的な部門の生産と建設上の需要を確實にみたしてゆくように保証しなければならぬのであります。

一九五九年の工業生産と基本建設の巨大な任務を時間的にも、量的にも、質的にも完遂するには、組織活動における指導をつよめ、生産と建設のそれぞれの環をたえず確實に点検することがぜひとも必要であります。重要な製品と建設項目については、旬、月、あるいは四半期ごとの進捗表をつくるとともに、中央と省、市、自治区との二つの級の指導機関が専任者を指定して、職場または工事現場にはいらせ、進捗と質を点検し、計画指標の確実な実現を保證するようにすべきであります。

年々の経験、とりわけ一九五八年の経験が証明しているように、工業計画を完遂するもつとも基本的な保証は、活動のなかで大衆路線の方法をつらぬくということ、集中的な指導とすさまじい大衆運動の展開とをむすびつけるということにほかなりません。すべての工業企業は、

例外なく党委員会の指導する工場長責任制をつらぬきとおし、合理的な必要な規定・制度をよくまもらなければなりません。生産、建設の面で責任を負うものがないとか、必要な規定・制度にそむくとかといった現象は許されなないことであります。しかし、われわれに必要な集中は民主をもととした集中であり、集中的な指導は大衆をたちあがらせることをさまたげるべきではなくて、思いきり大衆をたちあがらせることを保証するものでなければなりません。従業員代表大会およびその他の会議をつうじて、大いにものをいい、大いにぶちまけ、大々的に論議するという方式をとり、国家計画にきめられた任務について討論し、知恵をだし、策をねり、任務の完遂、超過完遂のために奮闘するよう、労働者・職員大衆を積極的に指導しなければなりません。企業の重要な会議には、基礎単位の幹部と大衆のなかの積極分子をひろく出席させるべきであり、重要なことからとりきめるさいには、すべてかれらの意見をもとめるようにしなければなりません。一九五八年に実行して効果をあげた大衆運動を發展させるさまざまな方法、たとえば党委員会書記が直接指揮にあたるとか、指導的幹部が「実験田」をつくるとか、現場会議をひらくとか、視察・評定をおこなうとか、赤旗競争を展開するとかといった方法、幹部が労働に参加し、労働者が管理に参加するという方法、指導者、技術者、労働者大衆が一体になるという方法は、いずれもあくまでこれを堅持し、ひきつづき發展させ、高めてゆかなければなりません。

工業戦線で小型企業をおこすとか、旧式の方法で生産するとかいった大衆運動はこれをひきつづき展開し、しだいに高めてゆくべきであります。こうした小型企業の旧式の方法による生産は、今年の工業生産、たとえば採鉱、洗炭、コークス製造、製銅、建築材料の生産ではやはりきわめて大きな任務をになうものであり、製鉄、製鋼では技術を高めたのちもやはりそれなりの比重をしめることになるでしょう。旧式の方法でつくった銑鉄、鋼鉄や旧式の方法でつくったその他の製品のなかには、質のあまりよくないもの、原価のわりに高いものもあります。が、しかし、それは当面わが国のある範囲での需要、とりわけ広はんな農村の需要に適したものであります。したがって、そうしたものの役割をゆめゆめ見くびるべきではありません。これを見くびれば、誤りをおかすことになります。「現代的な方法による生産と旧式の方法による生産を同時に發展させる」ということ、これはわれわれが工業を發展させる長期の方針であ

ります。「現代的な方法と旧式の方法をむすびつける」ということは、永久に存在するものであります。ただ將來における「現代的な方法」と「旧式の方法」は内容の点でも形式の点でも現在のものとはちがつたものになるだけのことであり、もちろん、どの業種にせよ、小型企業の旧式の方法による生産では、技術の改良、操作法および労働組織の改善に注意をはらい、労働生産性の向上、製品の質のひきあげ、製品原価のひきさげにつとめるべきであります。小型企業の旧式の方法による生産でしだいに現代的な技術をとりにいれ、いわゆる現代的な方法による生産へきりかえてゆくということ、これは必要な任務のひとつであります。この任務は、労働力と原料をわりあいによく消費する旧式の方法による生産にあつては、とりわけ早急に遂行すべきであります。

工業戦線と同様に、農業、運輸、郵便・電信・電話および商業の戦線でも、一九五九年の計画を完遂するには、いずれも大衆路線の活動方法を堅持し、猛烈に大衆運動を展開しなければなりません。

農業戦線では、広はんな農民は、はやくも去年の秋と冬に、今年の実産のためぼう大な準備

工作をすすめています。しかし、今年の実進計画を実現するにはやはりひきつづき大衆をたちあがらせ、大面積での豊作をめざす大衆運動を展開することが必要であります。公社の幹部と縣の幹部は、かならず野良へはいり、社員と一体になつて、今年の実と秋の大豊作をかちとるために奮闘し、今年一月の全国農業社会主義建設先進單位代表會議が提出した十大提案実現のために奮闘し、今年の実産、綿花、油料作物、麻類、製糖原料、各種の副食物および林業、畜産業、副業、漁業などの各生産計画を完遂、超過完遂するために奮闘しなければなりません。

一九五八年の農業大躍進は、土、肥、水、種、密、保、管、工の八つの面にわたる増産の技術的措置についてのゆたかな経験を提供しました。これらの経験は、ことなる自然条件とことなる作物にたいしてはことなる措置をとるべきであつて、千篇一律であつてはならないこと、それぞれの措置はまたがいにつながらりをもち依存しあうものであつて、ひとつまたはいくつかの措置をとるだけで満足してはならないことをわれわれに教えています。われわれは、これらの経験をりつばにまとめて、各公社、各生産隊にそれぞれの具体的な条件にもとづきそれに適した増産の技術的措置をきめさせ、それをまじめに実行してゆかせるようにしなければなりません。

農業がひきつづき大躍進をとげるには、農業の機械化が実現するまでは、ぼう大な労働力を必要とします。人民公社化の実現、共同食堂、託児所の設置はおびただしい婦人を家事から解放しましたが、しかし、生産任務の大幅な増加によつて、農村の労働力はやはり不足をつけています。目下の条件のもとでは、農業（農業、林業、畜産業、副業、漁業をふくむ）に従事する農村の労働力は、一般的にいつて八〇パーセント以下であつてはなりません。農村における労働力の需要をみたすためには、都市の工鉱企業はある期間、農村から労働者を募集することをやめるほか、農村から募集した余分の臨時工を農村へおくりかえすべきであります。縣と人民公社が経営する工鉱企業およびその他の基本建設は、一般的にいつて農事の繁閑におうじ、農閑期には多く経営し、農繁期にはすこし経営するようにしなければなりません。公社の行政管理にあたる人員とサービス関係の人員はこれまたできるだけ削減する必要があります、およそ半人前の労働力と補助的な労働力で間にあわせうるばあいには、強力な労働力をすこしかつかわないか、あるいはまったくかわないようすすべきであります。

農村労働力の不足を解消する根本的な方策は、農業の労働生産性をひきあげることであり、

技術革新と技術革命をしいに実現し、農具の半機械化と機械化をしいに実現してゆくこと
であります。一九五八年にくりひろげられた農具改良運動は、ひきつづきおこない、使用に適
することがすでに証明された改良農具は真剣にひろめ、普及させてゆかなければなりません。

人民公社が強固なものになることは、農業生産を順調に発展させる前提であります。党の第
八期中央委員会第六回総会の決議は、広はんな幹部と大衆に人民公社の現段階における社会主
義的な集団的所有制の性質を正しく理解させ、人民公社が労働におうじた分配と等価交換を実
行しなければならぬこと、統一的に指導し、級ごとに管理し、級ごとに独立採算をとらねばな
らぬこと、民主的に公社を経営し、勤儉を旨として公社の運営をおこなわなければならぬこと
を理解させましたが、このことは、人民公社を強固にするうえで決定的な役割をはたしまし
た。数カ月にわたる公社整備工作によつて、人民公社の管理制度はしいに健全になりつつあ
りますし、幹部の作風も大いにあらたまりました。全国の人民公社はすべてちかいうちに社員
代表大会をひらいて、公社の整備工作についての総括をおこない、生産の点検と手配、公社の
帳簿の整理、夏の收穫物の分配についての討議および公社の管理機構の選挙をおこなうべきで

あります。われわれは、こうした体制の整備と建設工作をりつばにやりとげたのちには、人民公社は全社員の積極性をよりよく發揮させうるにちがひなく、人びとの労働意欲もいつそう高まり、一九五九年の農業増産任務の完遂もさらに保証されるものと信じています。

運輸の面、まず鉄道輸送の面では、一九五九年の計画を実現するには、輸送面での組織活動をつよめ、いまある各種輸送設備の潜在力を効果的に發揮させるとともに、基本建設の任務を計画的に完遂するため努力すべきであります。

運輸部門は、輸送の計画性をたかめ、貨物の積卸しに要する時間をちぢめ、車輛と船舶の回転をはやめ、燃料の消耗を節約して、いまある輸送設備でより多くの輸送任務を完遂することにつとめるべきであります。輸送任務については、軽重緩急におうじて適宜に按排し、まず鋼鉄、石炭などの重要な生産手段と食糧、副食品などの重要な消費物資を遅滞なく輸送することを保証しなければなりません。とくに注意すべきことは、長距離輸送と短距離輸送をむすびつけ、陸運と水運をむすびつけることあります。短距離輸送を強化するには、農村の人民公社の車輛と船舶を大々的に組織して、現代的な輸送設備の不足をおぎなうべきであります。各工

業部門と商業部門は、運輸部門が合理的に輸送を組織するのをすんで援助し、対流輸送、必要以上の遠距離輸送、重複輸送などの不合理な現象を減らすか、まったくなくしてしまうべきであります。

必要な物資の供給を保証し、市場のひきつづきの安定を確保するため、商業部門は一九五九年には繁雑で重要な任務をになつていきます。まえにのべましたように、一九五九年の一般商品小賣総額は六五〇億元にたつし、一九五八年より一九パーセントふえることになつています。建国当初の一九五〇年の一七〇億元とくらべると三・八倍であり、第一次五カ年計画の第一年度——一九五三年の三四八億元とくらべても八七パーセントの増加であります。わが国の人口はきわめて多く、各人がすこしでも消費をふやすと、これを合計すればおどろくべき量になります。消費物資の生産がまだ需要をみたしえない状況のもとでは、あれこれの物資が暫時品不足をつけるといふ現象をまったくさけることは困難であります。全国の市場について全面的な按排をおこない、消費物資の供給を完べきにおこなうようにつとめ、供給面に穴があくといふ現象をふせぎ、これを減らすようにつとめることが、当面における商業部門の重要な任務であ

ります。

各級の商業機構は、農産物および副産物と日用工業製品の買付をつよめ、工業原料となる各種の「廃品」の買付を完べきにおこなうようにつとめるべきであり、販賣購買契約制度をつうじて、農産物および副産物の生産の発展をうながし、都市と農村の物資交流を増大させるべきであります。それと同時に、輸出貿易の管理をつよめて、国家の輸出計画を時間的にも、量的にも、質的にも完遂できるようにしなければなりません。

工業、農業、運輸業、あるいは商業の戦線のいづれをとわず、大衆運動の中心の環は、労働生産性をたかめ、生産をふやし、節約を励行し、浪費に反対するというものでなければなりません。一九五九年の国民経済計画の規模は雄大なものであり、その任務はきわめて大きなものであります。しかしながら、われわれの潜在力がすでにくみつくされ、計画の指標はこれ以上超過できないなどはけつしていえないのであります。生産と建設のなかでの技術革新と技術革命の可能性は無限であります。工具の改良、設備の改善、設備利用率の向上、製品の設計と建築設計の改善、操作法と施工法の改良、労働力と原料、材料の節約、各種の代用品および各

種の「廃品」の利用、製品の質と工事の質の向上、廃品と二級品の率の低下、こうしたことはすべて労働生産性をひきあげ、原価をひきさげることができます。われわれが政治がすべてを統率するという方針をだんこ実行し、幹部と大衆の思想的自覚をたかめ、一九五九年の計画のもつ偉大な政治的意義と当面の問題点をみんなに理解させ、思うぞんぶんに大衆をたちあがらせさえすれば、われわれは、かならず増産節約のあらゆる方策をみいだすことができるのであります。たとえば、全国の炭鉱では、一月と二月の二カ月間における一日平均の出炭量は九六万トンでしたが、三月のはじめはんな労働者・職員大衆のあいだに技術革新と技術革命を中心とする競争運動を展開してからは、三月の一日平均の出炭量は急ピツチで一一三万トンまで上昇し、ついに第一・四半期の計画にきめられていた任務を超過完遂したのであります。こうした大衆運動は、石炭工業にかぎらず、その他の工業、農業、運輸業にもあらわれてきています。現在は第二・四半期のはじまりであり、年度計画を完遂する鍵となる時期であります。われわれは、全国にわたつて、思想的にも政治的にもすべての労働者、農民、知識人およびすべての国を愛する公民の積極性を動員し、ただちに増産節約の全人民的な運動を展開すべきであ

ります。われわれは、みんながこの運動を真剣に展開し、徹底的にやりぬきさえすれば、われわれの一九五九年の国民経済計画はかならずたんに完遂しうるばかりでなく、超過完遂しうると思っているのであります！

三、文化・教育戦線におけるわれわれの任務

社会主義的経済の高まりとともに、わが国には社会主義的文化の高まりがおこりました。整風運動と反右派闘争ののち、文化・教育事業の各部門、各単位では、プロレタリアートの指導的地位が確立、強化され、文化・教育の高まりに政治的な保証があたえられました。一九五八年には、国家の経営する各種の文化・教育事業がおしなべて急速な発展をみたばかりでなく、広はんな労働者、農民が教養を身につける必要を痛感して、これまた自力で学校をおこし、科学事業をおこし、文化事業をおこし、各種の業余文学・芸術活動をおこなったので、広はんは大衆的な文化革命の局面がうみだされました。文化・教育戦線の知識人は自己改造をおこなうなかで、多くのものが社会主義的積極性をたかめ、労働者・農民大衆や生産労働とのつながり

をつよめ、文化の普及と文化の向上の面で、積極的な役割をはたしました。ひきつづき文化・教育戦線でのあらゆる積極的な要素を動員し、文化革命の事業をまえにむかつておしすすめ、社会主義的文化を普及させるとともに、普及を土台としてたえず強固にし向上させてゆき、こうして文化・教育活動の発展を社会主義建設全体の需要に適應させてゆくということ、これがわれわれの任務であります。

これまでの数年間、とりわけ一九五八年には、わが国の教育事業は大きな発展をとげました。わが国の大学・専門学校の学生は、一九五二年には一九万人だったのが、一九五七年には四十四万人となつて倍以上にふえ、一九五八年にはさらに一九五七年より五〇パーセントふえて六六万人にたつしました。中等学校の生徒は、一九五二年には三〇〇余万人だったのが、一九五七年には七〇〇余万人となつて、これも倍以上にふえ、一九五八年にはさらに一九五七年より一七〇パーセントふえて一二〇〇万人にたつしました。小学生は、一九五二年には五一〇〇余万人であつたのが、一九五七年には六四〇〇余万人となつて二六パーセントふえ、一九五八年にはさらに一九五七年より三四パーセントふえて八六〇〇万人にたつしました。労働者と農民

のあいだにおける業余の文化、技術、政治教育は、一九五八年にはさまざまな形式がとられ、大きく発展しました。文盲を一掃する仕事も大きな進展をみています。

教育事業の成果は、量的な発展にみられるだけではありません。それよりもさらに大切なのは、教育にたいする党の指導が大いにつよめられた条件のもとで、われわれが労働者階級の世帯と社会主義、共産主義の教育の原則にもとづき、教育を労働者階級の政治に奉仕させ、教育と生産労働をむすびつけるという方針を貫徹し、これによつて教育事業のきわめて大きな、つつこんだ革命をすすめたことであります。

労働者階級の政治に奉仕し、社会主義の事業に奉仕するということは、われわれの教育事業の根本的な出発点であります。われわれの学校では、社会主義、共産主義の思想・政治教育を真剣におこない、学生、生徒の社会主義的自覚をたかめてゆかなければなりませんし、また、われわれの児童と青年に一般知識と現代科学の成果を系統的に一步一步つかませる一方、学習の過程で生産労働にしたがう習慣をやしなわせ、頭脳労働にもたずさわられるし、肉体労働にもたずさわられるようにしてゆかなければなりません。古い社会の搾取階級が教育事業を経営するば

あのような考え方もつ人が、われわれの方針に反対するのはあたりまえのことです。実際には、ブルジョアジーおよびその他の搾取階級はみな、かれらの学校で、かれらの階級の利益をまもるための思想、政治教育をおこなっています。ブルジョア社会は労働者に浅薄な間口のせまい知識をわずかばかりあたえるだけであつて、思想や政治の面では極力かれらの目をおおいかくし、かれらをマヒさせ、むしろむのであります。ブルジョアジーは、一貫して、理論と實際をきりはなし、頭脳労働と肉体労働をきりはなすという精神で、搾取制度に奉仕する知識人を養成しているのであります。われわれの教育方針は、ブルジョアジーのこうした方針とはまったく正反対のものであります。われわれの方針は、プロレタリアートの科学的、革命的な世界観によつて労働者、農民および知識人を武装させ、搾取階級の思想の影響をすべてぬぐいさるということ、教育を勤労人民に奉仕させ、文化を勤労人民のものとし、頭脳労働と肉体労働をむすびつけることにあります。

われわれの学校では、すでに生産労働を教育計画のなかに正式にくみいれ、さまざまな状況におうじて学生・生徒を一定の期間生産労働にくわらせるようになりました。生産労働の実

踐をつうじて、広はんな教師と学生・生徒は、実地の生産知識をより多く身につけ、労働をこころから愛し勤労者を尊敬するという氣風を確立しました。大学・専門学校ではまた生産実践によつて科学研究活動が力づくよくおしすすめられました。事實は、教育と生産労働を正しくむすびつけることは、学校と社会のつながりをつよめるのをたすけ、理論と實際をむすびつけるのをたすけ、頭脳労働と肉体労働をしいにむすびつけるのをたすけることができ、学校を共產主義的な新しい人間を養成する新しい型の学校へと日ごとに発展させることができるということを実明しています。教育事業におけるこうした徹底的な革命については、われわれはまだ初步的な経験をえたにすぎないのであつて、活動のうえにはなお欠点があり、また、さらにつつこんで検討し解決すべき問題もいくつかのこざれていることはいうまでもありません。われわれは、ひきつづき経験を積み、これをまとめ、たえず活動を改善して、教育と生産労働をむすびつけるといふこの方針をいつそうよく貫徹してゆくべきであります。

わが国の教育事業を発展させるには、普及と向上をむすびつけるという方法をとらなければなりません。文化の普及を実現し、当面における国家の建設事業発展のうえでのさしせまつた

需要をみたすためには、各級の全日制の正規の各学校のほか、実際の可能性にもとづいて、半日制の学校や農村および工場、鉱山の業余学校をひきつづき発展させてゆくべきであります。大衆的な文盲一掃の仕事は積極的におしすすめてゆかなければなりません。それと同時に、われわれは各種の学校の教育の質を高めることにとりわけ注意しなければなりません。昨年的一年間に、各級の学校はいずれも大きな発展をとげましたが、こうした大きな発展を土台として整備、強化、向上をはかる必要があります。各級の全日制の正規の学校では、教育の質の向上を經常的な基本任務のひとつとするとともに、まず最初にわりあい大きな力を集中して一群の重点校をりつづばに経営し、これによつて国家のためいつそうすぐれた専門の人材を養成し、わが国の科学、文化水準の向上を急速に促進してゆくべきであります。

四害（ハエ、蚊、ネズミ、スズメ）をのぞき、おもな疾病をなくすことを中心とする愛国衛生運動と、人民の体位を増進することを目的とする体育運動は、一九五八年にきわめて大きな成績をあげましたが、こんどもひきつづきこれを展開してゆかなければなりません。衛生事業では、ひきつづき大衆路線を貫徹し、専門家と大衆をむすびつけて、わが国人民の衛生状態を

急速に、効果的に改善してゆくべきであります。漢方医と西洋医を結集し、かれらが力をあわせて人民の衛生事業に奉仕し、力をあわせて祖国の医学上の遺産を發揚し、医学と薬学を發展させるよう組織すべきであります。体育事業では、普及と向上をむすびつける方針を貫徹し、大衆的な体育運動をひろく展開し、わが国の体育水準をしいにひきあげてゆくべきであります。

一九五八年、科学・技術の面では、科学へむかつて大衆進軍する大衆運動がおこされ、多方面にわたる研究の成果があがり、科学・技術の隊伍も大きな發展をとげました。科学研究機関、大学・専門学校および工農業生産戦線の多くの科学者と技師、技術員は、社会主義建設事業に奉仕するなかで高度の積極性をしました。

科学・技術面では、われわれはいまなおたちおくられていますから、いつその努力をはらわなければなりません。生産、建設に直接奉仕する任務は、もつとも主要な地位におくべきであります。生産、建設の各戦線では、おびただしい技術的課題がありますから、科学・技術人員は、手分けし協力しあつてこうした課題の解決に努力すべきであります。尖端的な科学・技術

もその發展に注意すべきであり、条件のまだそなわらないものは目下のところ各方面からその条件をととのえてゆくことが必要であります。基礎理論の研究は、科学・技術の發展にたいしてきわめて大きな影響をもたらすものですから、十分にこれを重視すべきであります。

社会科学関係の理論研究活動も積極的に發展させ、指導をつよめるべきであります。その重要性を軽視することは許されぬことでもあります。社会科学関係の理論活動家がマルクス・レーニン主義の指導のもとに、系統的な長期にわたる努力をかさね、関係資料を十分にこなし、ひとりだちで創造的な研究にしたがうよう励ますべきであります。

文学・芸術戦線では、専門の文学者、芸術家の仕事であろうと、労働者・農民大衆の業余の文学・芸術活動であろうと、すべて活氣にみちあふれた状況を呈しています。われわれは、専門の文学者、芸術家が多大の努力をかさね、思想性、芸術性のより高い作品をもつて人民大衆を教育し、人民大衆の文化生活面での要求をみたすよう励ますべきであります。それと同時に、大衆の文学・芸術活動を積極的に指導し、勤労人民のなかからあらわれた文学・芸術面の人材を養成することに注意をはらうべきであります。

科学と芸術を健全に発展させるためには、社会主義に奉仕するという土台のうえで、「百花齊放、百家争鳴」の方針を貫徹しなければなりません。この方針は、わが国の科学・文化の繁栄と発展の道をさし示し、科学界、文化界の全体にきわめて大きな励ましをあたえました。一九五六年に党がこの方針をうちだしてから間もなく、資本家階級の右派分子がこの方針をねじまげ、社会主義の「香り高き花」をよそおい、党と社会主義に攻撃をくわえ、文化事業の指導権をうばいとうと企てました。反右派闘争の勝利は、かれらの反動的な企てを木っ葉徹塵にうちくだいたのであります。これによつて、この方針を実行するうえに有利な条件がうみだされました。社会主義建設の躍進、大衆的な文化革命の高まりは、科学・芸術の「百花齊放、百家争鳴」にひろびろとした天地をきりひらきました。われわれは、科学上でのことなる学派、ことなる見解の自由な論争、芸術上でのことなる形式、ことなる風格の自由な競争をつうじて、近い将来、われわれの科学・文化事業がきつと隆盛期に入り、偉大な成果をあげうるにちがいないと信じています。

いく千いく万という労働者階級の知識人の隊伍をつくりあげることが、文化・教育戦線の偉大な歴史的任務のひとつであります。この隊伍は、新しい知識人を養成し、旧い知識人を改造することによつて生みだされるのであります。

旧い知識人の自己改造については、最近よろこばしい現象があらわれました。それは、かれらのうちすくなからぬ人びとがところから党の指導をうけいれ、社会主義建設のために奉仕しようとのぞんでいるばかりでなく、大衆のなかに深くはいり、定期的に工場や農村へおり、労働にくわわり、勤労人民とともに生活し労働するという新しい経験をつみ、自己の自覚をたかめたといふことでもあります。いちぶのブルジョア知識人は、長期にわたつて真剣に自己改造をおこなつたすえ、すでに労働者階級の知識人にかわりはじめています。かれらのなかのいちぶの先進的な人びとはぞくぞくと中国共産党に入党しました。こうした事実はずべて、党と国家が一貫してとつている、知識人と団結し、かれらを教育し、改造するという政策が完全に正しいものであることを証明しています。旧い知識人は政治的に社会主義のがわに立ち、広はんな人民と一体となれば、社会主義事業のなかでかれらのもつ知識と技術を運用し、その長ずるところを發揮して、人民から歓迎されるようになりうるのであります。もちろん、かれらが、さ

らに一步すすんでブルジョアジーの世界観ときれいきつぱり縁を切り、労働者階級の世界観を本当に身につけるには、まだかなりながい時日を必要とします。古い知識人はもはやこれ以上自己改造をしなくてもよいとか、あるいはかれらはごく短期間に徹底的な改造をなすとげるべきであつて、それをやらなければ仕事にたずさわることができないとか、こういつた考えはいずれも誤りであります。社会主義の道を歩もうとのぞむ古い知識人はすべて、ひきつづき努力をかさね、こんご長期にわたる仕事の実践をつうじてしだいに自己改造を実現してゆくべきであります。われわれは、かれらの仕事をしかるべく按排し、仕事のなかでのかれらの積極性を重視し、仕事のなかでもつと多くの成績をあげるようかれらを援助すべきであります。それと同時に、かれらがマルクス・レーニン主義を学習するのを助け、かれらが大衆と接近して実情を了解する機会をより多くもつとともに、自発的な意志にもとづいて適宜に肉体労働に参加できるよう援助する必要があります。

多くの若い知識人がぞくぞくと育つていきます。かれらは、共産主義的自覚と業務知識の水準をたかめるため勇敢に前進をつづけており、各方面の仕事のなかですでに初歩的な貢献をしました。われわれは、かれらがより大きな成績をあげるため努力するようみちびき、かれらがたえず科学知識の高峰をよじつづけるようはげまし、かれらがどんなばあいでも、おごりたかぶることのないよう教育してゆくべきであります。若い知識人もまた、たえず自己を改造する任務をもつていきます。かれらは、どんな職場にあつても、自己の業務能力を高めるよう努力するとともに、真剣にマルクス・レーニン主義をまなび、大衆的な生産と闘争の実践にくわわり、肉体労働に参加し、政治上、思想上および工作上で自分にきびしく要求すべきであります。若い知識人は、学問のある先輩にたいして虚心に学ぶべきであり、年長の知識人もまた、若い知識人の長所を学ぶべきであります。国を愛するすべての知識人は社会主義の旗のもとに団結し、力をあわせて偉大な祖国を建設するため努力すべきであります。

四、国家の政治生活について

わが国の人民民主主義独裁と人民内部の団結は、各戦線における社会主義革命の決定的な勝利のち、以前のどの時期よりもさらに強固なものとなりました。その原因はつぎのとおりで

あります。第一には、工商業の面で、われわれが、生産手段の全人民的所有制をもつて生産手段の資本家的所有制に基本的にとつてかわらせるとともに、資本家には定額利息を支給し、これによつて、勤労人民と工商業ブルジョアジーとのあいだの経済的矛盾を基本的に解決したとです。第二には、農業と手工業の面で、われわれが生産手段の集団的所有制をもつて農民および手工業者の個人所有制にとつてかわらせ、これによつて、個人所有制から生じる農民内部および手工業者内部の矛盾、ならびに個人経済と社会主義的計画経済とのあいだの矛盾を解決したことです。第三には、思想戦線と政治戦線の面で、われわれが資本家階級の右派に反対する闘争をくりひろげ、かれらの反共、反人民、反社会主義の攻撃をうちくだし、各階層の人民大衆の社会主義的自覚をたかめ、右派分子を人民大衆のなかで完全に孤立させたことであります。第四には、われわれが人民大衆、なによりもまず人民大衆の先進分子の隊伍のなかで整風運動をおこない、ふたつの道の問題についての論議と教育をくりひろげ、官僚主義反対、セクト主義反対、主観主義反対の闘争をくりひろげて、幹部と大衆とのつながりを大いにつよめたことであります。

わが国では残存の反革命がすでに基本的に肅清され、社会秩序の安定が一段と保障されています。しかし、いまなお少数の反革命分子がこつていますので、ひきつづきこれを肅清しなければなりません。檢舉した反革命分子にたいしては、われわれはここ数年らい実施して効果をあげた、懲罰と寛大をむすびつける政策をひきつづき実行してゆきます。資本家階級の右派分子にたいしては、われわれはかれらをたすけて改造をおこなわせる寛大な処理方法をとられらの公民権を剝奪せず、かれらの仕事と生活を適宜に按排して、改造しうるものはすべてできるだけ一步一步と改造して新しい人間になれるように計らいました。

いま、アメリカ帝国主義は西太平洋で多くの地方を占領し、そのうえわが国の台湾をも占領して、たえずわれわれを脅かしています。したがつて、われわれはひきつづき国防をかため、国防建設に力をいれて、わが国民の平和な建設をまもらなければなりません。

わが国民の内部では、すでにのべましたように、社会主義革命が勝利をおさめたことによつて、とりわけ整風運動が深められ、毛沢東主席の提出した、人民内部の矛盾を正しく処理するという方針がしだいにつらぬかれたことによつて、人民民主主義がきわめて大きな発展をみ

ました。こんど、整風運動のなかでえたよい方法はすべてわれわれの政治生活のなかで恒久化してゆき、問題があれば大衆と相談し、ことなつた意見は十分に討論させるようにしてゆくべきであります。幹部の会議や大衆の会議を定期的にひらき、大字報を出し、「言うものに罪なく、聞くものの戒めに足る」という原則をあくまでつらぬき、人びとが思うぞんぶん意見をのべるようにすべきであつて、けつして、「意見の対立」をおそれてはなりません。なぜなら、矛盾をすつかりあばきだしてこそ、問題はわりにはやく、わりに妥当な解決をみるからであります。農村でも都市でも、三級、四級、五級、六級の幹部会議の形式を利用し、下部の幹部が参加し、大衆のなかのすすんだものとすすんでいないものが参加する幹部会議の形式を利用して、党と国家の政策および上級の決定をじかに下部の幹部と大衆に知らせ、大衆と下部の幹部の意見をじかに上級のものに耳にいれるようにしなければなりません。これまでの経験からもあきらかなように、こうした会議は大衆の知恵をあつめ、人民内部の団結をつよめるうえに有利であつて、人民民主主義を発揚する有効な武器のひとつであります。

この一年らしい、国家の勤務人員は、大衆のなかに深く入るといふ点で、めざましい進歩をしました。広はんな幹部は、大なり小なり大衆からうきあがつた考え方と活動態度をあらため、旧い社会から身につけてきた官氣(官僚的な氣風)、暮氣(活氣のない、だらけた氣風)、濁氣(氣前よくふるまう大旦那風の氣風)、驕氣(おごりたかぶつた氣風)、嬌氣(困苦をおそれる弱々しい氣風)を克服し、また、一般の勤労者として大衆のなかに立ちあらわれました。全国の縣以上の各級の国家机关からは、一〇〇万人以上の幹部が農村や工鉱業企業へおとりて、肉体労働あるいは下部の仕事にたずさわりました。また、農村工作の指導にあたる幹部は定期的に公社へおとりて社員となり、工場の指導的な幹部は定期的に職場へおとりて労働者となり、部隊の指揮員は定期的の中隊へおとりて兵士となるといふうに、体力の点で条件のある指導的幹部はすべて定期的な肉体労働に参加するという新しい氣風がうまれていきます。これは、革命的な、共産主義的な氣風であります。これは、幹部と大衆をむすびつける新しい道をきりひらいたばかりでなく、頭脳労働と肉体労働をむすびつけるための新しい道をもきりひらきました。一九五九年には、全国各級の国家机关は、一九五八年の経験をまとめ、これを土台として、ひきつづき計画的、定期的に幹部を下部へおろし、肉体労働に参加させるべきであります。

わが国人民の大団結の基礎は、労働者と農民の同盟であります。人民公社運動と社会主義事業せんたいの躍進をつうじて、この同盟はますます強固なものとなりました。現在でも、労働者、農民に属さない階層が存在しています。労働同盟をひきつづきつよめてゆくという前提のもとに、社会主義建設の時期には、われわれはひきつづき勤労人民と協力できる非勤労人民との同盟を保持してゆくであります。

反右派闘争以後、各民主党派の成員と民族ブルジョアジーのあいだでも、わりあいにつつこんだ整風運動がおこなわれました。かれらのなかの多くの人がとは、学習、工作、労働による鍛練をつうじて、程度の差こそあれ進歩をとげました。国家の工作に参加している多くの民主党派の成員とその他の民主人士は、ひとにぎりの右派分子をのぞき、多くのものが自己の職場で職責をはたしています。各民主党派は、整風のなかで自己の組織を整備しました。かれらは、さまざまな社会的な力を結集して社会主義に奉仕するという事業のなかで、あいかわらず積極的な役割をはたしています。こんご、わが国では、社会主義に奉仕するという土台のうえで人民民主統一戦線をひきつづきつよめ、発展させてゆくことがやはり必要であります。共産

党の指導をみとめるという前提のもとに、共産党と各民主党派が「長期にわたつて共存し、相互に監督しあつてゆく」ことは、人民の事業にたいしやはり有益なことであります。資本家にたいしては、国家は、もときめた期限にもとづいて定額利息を支給するとともに、かれらが社会主義建設の仕事に参加するなかで、ひきつづき自己を教育し改造するのを積極的に援助するであります。

民族工作については、これまでの四年間、政府は憲法のさだめるところにもとづき、国家の統一を保証し民族の平等を実現するという原則のもとに、民族の地域的自治をひきつづきおしすすめ、すでにきわめて大きな効果をおさめました。もとからある内蒙古自治区のほか、新疆ウイグル自治区、広西チワン（僮）族自治区、寧夏回族自治区がはい前後して成立し、さらにチベット自治区準備委員会の成立をみました。このほか、青海、甘肅、新疆、雲南、四川、貴州およびその他のいくつかの省、自治区に、二九の自治州、五四の自治縣が成立しました。これらの民族自治地方には、三〇をこえる民族が包括されています。

少数民族地区では、チベットとその他のごくわずかな地方をのぞき、いずれも民主的改革が

なしとげられ、社会主義的改造が基本的になしとげられ、その土台のうえに人民公社化が実現されました。多くの少数民族は、昨日まではまだ封建制度、さらには奴隸制度の束縛をうけていましたが、今日では社会主義の光明にみちた大道を歩んでいます。かれらはまことに、一瀉千里の勢いで発展をつづけています。

一九五八年には、少数民族の経済と文化もきわめて大きな躍進をとげました。統計によると、内蒙古、新疆、広西、寧夏の四つの自治区における一九五八年の工業生産総額は一九五七年より八八パーセントふえ、食糧收穫高も八三パーセントふえています。全国における少数民族の学生・生徒数の増加はめざましいものであります。一九五八年の上半期に小学生は三一九万人、中等学校の生徒は三十一万人、大学・専門学校の学生は一万六〇〇〇人をかぞえました。全国の三六〇〇万にのぼる少数民族の人口のうち、学生・生徒の総数は三五一万人になつています。解放前にくらべますと、小学生は七倍以上にふえ、中等学校の生徒は八〇倍にふえ、大学・専門学校の学生は二八倍にふえました。いぜん文字をもたなかつた多くの少数民族も、いまは文字方案をつくり、自分たちの文字で書籍や新聞を出版しています。

民族政策が正しく実行されたので、漢族と各兄弟民族とのあいだ、および各兄弟民族相互のあいだにおける友好と団結は、大いにつよめられました。漢族の幹部のあいだでは、数年らい、大漢民族主義の傾向に反対する闘争がずつとつづけられています。多くの少数民族地区では、整風運動のなかで、いろいろの形式の、いろいろの程度の地方民族主義に反対する闘争がおこなわれました。広はん少数民族の幹部と大衆は、整風運動による鍛練と経済、文化の建設活動での実践をへて、自覚の程度がたえず高まつており、かれらのあいだからは多くの先進分子がそだつてきています。これは、少数民族地区の社会主義事業がいちだんと急速に発展するための確実な力であります。

65

祖国の統一ということは、全国各民族の最高の利益であります。中国がひとつの統一された多民族国家であるのは、長期にわたる史的発展の結果であります。帝国主義者は、中国にたいする侵略をはじめていご、一貫して中国の統一をくずし、中国の各民族の団結をやぶろうとねらつてきましたが、しかし、かれらはこの目的をとげることができませんでした。帝国主義の侵略は、かえつて、中国の各民族の絶対多数の人民にその共同の運命を痛感させ、統一された

国家の貴さを痛感させました。中国人民の革命と中華人民共和国の樹立は、国内の各民族をいつそうしつかりと団結させました。各民族の愛国的な人民は、歴史の事実の教訓のなかから、帝国主義の圧迫から徹底的にぬけだして社会主義の道をあゆんでいる祖国の統一された大家庭のなかでこそ、各民族ははじめて繁栄するのだということを見てとつています。かれらは、共産党の指導する人民民主主義国家がすでに民族的圧迫を根こそぎなくし、さらに歴史上のこされてきた民族的差別の心理的な残余を一扫することにとめていようとすることをみてとつています。資本主義制度のもとでは、わりに発達した強大な民族が他の民族をできるかぎりたちおくれた状態にとどめて、かれらにたいする圧迫と搾取を容易にするのがつねでありま

す。社会主義制度のもとでは、事情がまるで反対であります。われわれの国家では、各民族はたんに政治上平等であるばかりでなく、経済、政治、文化の各方面で、比較的にすんだ、人口の多い民族は比較的におくれた、人口のすくない民族に援助をあたえ、みんなをそろつて進歩させ、いつしよに発展させてゆく責任があるのであります。

はいさん、もとのチベット地方政府と上層の反動一味がおこした、祖国にそむき、統一をやぶる武装叛乱は、すでに恥ずべき失敗をなめました。政府は、もとのチベット地方政府（すなわちガシヤ）を解散するとともに、チベット自治区準備委員会が地方政府の職権を行使して、チベットにはやく民族の地方自治を実現し、しだいに民主的改革をすすめるよう命じました。この措置は、チベットの広はん愛国的僧俗人民から熱烈によるこびむかえられています。これは、わが国の民族団結の政策のひとつの偉大な勝利であります。

中央人民政府のチベット地方にたいする方針は、これまでずつとはつきりしています。われわれは、憲法の規定にもとづき、これまでずつと国内の各民族人民のあいだの団結とチベット人民自身の団結を堅持し、チベットに民族の地方自治を実行することを主張してきました。中央人民政府は、一貫して宗教信仰の自由という政策を堅持するとともに、さまざまの積極的な措置をとつてチベット地方の経済と文化の発展を助けてきました。こうしたことはすべてチベット人民から熱烈な歓迎をうけています。一九五一年のチベットの平和的解放についての十七カ条の協定によると、チベット地方政府は、人民と団結し、帝国主義侵略勢力をチベットから追い出し、チベットのおくれた社会制度を改革すべきでありました。チベットの上層人士の思

想状態にかんがみて、われわれは、チベットの改革をいくらかおくらすことを許し、チベット地方政府と上層人士にじっくりと考慮する時間をあたえました。しかし、もとのチベット地方政府と上層の反動一味は、かえつて帝国主義、蒋介石匪賊一味および外国の反動派と結託し、かれらの力にたよつて祖国を分裂させ、チベットにおける帝国主義の侵略勢力を復活させ、チベットの立ちおくれた、暗黒の、反動的で残酷な農奴制度をのこそうとたくらんだのであります。かれらは、人民の参与する民主的な地方自治を頭から実施しようとせず、チベット自治区準備工作の進展を一貫してさまたげてきました。かれらのこうした行爲は、チベット人民の利益と国内各民族の共同の利益にはなはだしくそむくものであります。ですから、かれらの叛乱行爲はたちどころに全国各民族人民のだんことした反対にあい、なによりもまず、国を愛する多くの進歩的な上層分子をふくむ、チベットの広はんな人民のだんことした反対にあつたのであります。これらの反動分子は完全に情勢を見あやまりました。かれらは帝国主義が中国の内政に采配をふるつた時代がすでにすぎ去つてしまつたことを知らなかつたのであります。

げんざい、チベットの局面は、完全に人民解放軍チベット軍区とチベット自治区準備委員会

ににぎられています。人民解放軍チベット軍区の部隊は、チベットの僧俗人民の積極的な支持をうけて、僻地を逃げまわつている叛乱分子の残余をひきつづき掃蕩中であります。チベット自治区準備委員会は、すでに地方政府の職権を行使しはじめています。チベットのこんごの社会改革については、中央とチベットの上層、中層の愛国者および各界の人民大衆とが十分に協議して、改革をおこなう時期、段取、方法をきめることになっていきます。いづれにしても、改革はチベットの特徴をじゆうぶん考慮にいれるという条件のもとで一步一步とおしすすめ、改革にあつてはチベット人民の宗教信仰と風俗習慣をじゆうぶん尊重し、チベット族のすぐれた文化を尊重し発揚してゆくことになっていきます。ダライ・ラマはすでにインドへ拉致されてはいますが、われわれは、かれが叛乱分子のもとからぬけ出して、祖国へ帰つてくることをあいかわらずのぞんでいます。

チベットの反動分子はつねづね信心ぶかいふりをよそおい、人びとがそろつて天国にのぼることをのぞむなどのべたてていましたが、しかし、かれら自身はチベットをこの世の地獄にかえたばかりか、チベット人民にいつまでも暗黒な生活をおくらせ、ヨーロッパの中世紀より

もさらに野蛮でいつそう残酷な暗黒の淵につきおとそうとしていたのであります。かれらはまたつねづね平和を愛するふりをしていましたが、しかし、実際には、悪党をつかつて放火、殺人、強姦、略奪をやらせ、大衆を迫害したばかりか、最後にはとうとうかれら自身がきちがいじみた武装叛乱をおこし、自滅の道を行んだのであります。チベットは、昌都、前藏、後藏の三つの地方からなり、人口は合計一二〇万人ですが、叛乱にくわつたものはわずか二万人前後にすぎません。そのうち、多くはあざむかれ、脅かされてくわつたものですし、しかもそれには金沙江以東のものと西康省の地区から逃亡した叛乱分子、すなわち、いわゆるカンパ人が一部ふくまれているのであります。チベットには、改革を要求する勤労人民と、改革に賛成する上層の進歩的な人びとおよび説得しうる中間的な人びとが、合計百十数万人います。いま世界にはチベット人に同情すると口にしてはいるものが一部いますが、かれらは、自分たちが同情しているのがはたしてどの部分に属している人びとなのかを区別していません。かれらは、改革を要求し、改革に賛成している百十数万の勤労人民、進歩的な人びとおよび説得しうる中間的な人びとに同情しているのでしょうか？ それともごく少数の反動分子に同情してい

るのでしょうか？ われわれは、すべての心がけのよい友人が（ここでいう心がけのよい友人とは、わが国とともにあくまでも平和共存の五原則を執行することをのぞみ、中国の内政に干渉しないと声明する人びとをさします）絶対多数とごく少数というこの実にはつきりした区別をなによりもまずはつきりさせることを希望するものであります。もしも人びとがチベット内部の実状を知つたならば、旧い制度の圧迫をうけている絶対多数のチベットの勤労人民に同情し、かれらの社会改革の要求に同情をよせるべきであります。チベットの反動派の叛乱が失敗した結果、チベット人民はいま、農奴制度の首かせからぬけたし、民主的自治と社会進歩の願いを実現することができるようになりました。かれらは、全国の各民族人民の援助のもとに、チベット高原をたんだんとほんとうのこの世の楽園にきずきあげてゆくことであります。このことは、チベット人民、全国の各民族の人民および世界でチベット人民に真に同情をよせているすべての人びとにとつて、なんとよるこばしいことでありましようか！

チベットは中国の領土であり、チベット反動分子の叛乱とこの叛乱の平定は中国の内政であります。チベット侵略にこれとめてはいる帝国主義者でさえもこの点は否定することができま

せん。チベットでの叛乱事件が勃発してのち、またダライ・ラマが叛乱分子のためインド国内へ拉致されてのち、われわれの偉大な友好的な隣国インドのネール首相は、中国の内政に干渉しないし、ひきつづき中国、インドの友好関係を強化するという声明をつづけさまに発表しましたが、われわれはこれに歓迎の意を表します。中国とインドの両国は、二千余年にわたる友好の歴史をもつほか、ともに平和共存の五原則を最初に提唱した国であります。われわれ両国は、チベットのひとにぎりの叛乱分子のためにおたがいのあいだの友誼と両国がともにもまもる外交上の原則を動搖させる理由などは全然ないのであります。たしかに、チベットでの叛乱が失敗するまえ、チベットの反動分子といちぶの外国の反動分子が、中国とインドの国境のある地区を利用して、わが国の統一と中国、インドの友好を破壊する活動をおこないました。しかし、これら反動分子のもくろみはいまではすではずれてしまいました。われわれは、チベットでの叛乱の平定にともない、中国、インド両国の双方が共同の努力によつて、人口あわせて十億をこえるアジアの二つの偉大な平和国家の友好関係がさらに強固な土台をもち、よりよき発展をとげるようになることをのぞんでいます。中国とインドの友誼を破壊しようとならう連

中の悪意にみちたどのような挑発も、むだ骨折にすぎないのであります。

五、対外政策について

国内の各戦線で偉大な勝利をおさめたと同時に、われわれは対外関係の面でも重要な進展をみました。わが国は、ソ連を先頭とする社会主義陣營の諸国とともに、平和を愛するすべての国と人民とともに、世界の平和をまもる事業のためきわめて大きな努力をほらつてきました。この四年らい、わが国と外交関係もしくは半ば外交関係をうちたてた国は二〇から三三にふえ、わが国と経済関係をうちたてた国および地区は九三、文化面の連繫をむすんだり友好往來をおこなつたりしている国および地区は一〇四となつています。国際事務のなかで新中国を孤立させ、排斥しようとするアメリカ帝国主義の企ては、すでに日一日と失敗をなめています。

当面の国際情勢の全般的な特徴は、社会主義の力、民族独立運動の力およびその他平和を愛する力が急速に発展しており、帝国主義の侵略政策と戦争政策がはなはだしい困難におちいつているということがあります。まさに毛沢東主席がのべているように、敵は日一日とくされは

ててゆき、われわれは日一日とよくなつているのであります。

ソ連を先頭とする社会主義陣営はいまめざましいはやさでまゝに向かつて発展をつづけています。ソビエト人民はソ連共産党の指導のもとに、国民経済を發展させ、人民の福祉を向上させ、ソ連および社会主義陣営の威力をつよめ、世界の平和をまもるといふ面で偉大な成果をおさめました。ソ連は、まづ先に人工衛星を打ちあげたのち、さらに世界最初の人工惑星を打ちあげました。さきごろ、ソ連共産党第二十一回大会は、国民経済發展のための雄大な七カ年計画を採択しました。この計画は、ソ連が重要な歴史的時期——全面的に共産主義社会の建設を展開する時期にふみこんだことをしめし、かぎりなくうるわしい共産主義社会の到来がもはや遠くない將來であることを全人類にむかつて予告しました。その他の社会主義国もすべて、自国の国民経済を急テンポで發展させています。社会主義陣営ぜんたいは、いま、いたるところ経済建設の高まりのさなかにあります。あまり長くない歴史的期間内に、ソ連は人口一人あたりの生産水準でアメリカをしのごでしようし、中国も先進的な大工業国にかわるでしようし、社会主義陣営ぜんたいが物質生産の面で帝国主義陣営をいちじるしくしのぐでしようから、こ

れによつて世界の平和が十分に保障されるようになるということは、完全に断定できるのであります。

ソ連を先頭とする社会主義陣営の団結はいつそう強固なものとなりました。

ソ連との団結をつよめ、すべての社会主義国との団結をつよめること、これはわが国の根本方針であります。この数年らい、わが国とソ連およびその他の社会主義国との友好互助の兄弟的な関係は、きわめて大きな發展をしめました。われわれは、世界の平和をまもり、人類の進歩を促進するという共同の事業のなかで、一致団結して緊密な協力をおこなつています。

この一年あまりのあいだ、わが国はソ連とのあいだに、ソ連がわが国の重要な科学技術の研究に援助をあたえ、わが国の四七の企業の建設に援助をあたえ、わが国の七八の企業の建設に援助をあたえるという三つの協定と通商航海条約を締結しましたし、わが国はまたアルバニア、モンゴル、ドイツ民主共和国、ベトナム民主共和国、ポーランド、チエコスロバキア、ハンガリー、ルーマニア、朝鮮民主主義人民共和国、ブルガリアとのあいだでも、それぞれ、友好協力を發展させ経済、貿易、文化面の連繫をつよめる一連の協定を締結しました。ソ連およびそ

他の社会主義国は、わが国の社会主義的経済建設、文化建設にたいしひじょうに大きな援助をおたえてくれました。ここでわたくしは、わが国の政府ならびに人民を代表して、ソ連およびその他の社会主義国の政府と人民に深く感謝の意を表するものであります。われわれは、身をもつて経験したところから、社会主義諸国相互間の支援と協力こそ、社会主義諸国の順調な発展の重要な条件だということを痛切に感じています。こんご、われわれは、わが国とソ連その他の兄弟国とのあいだの政治、経済、技術、文化その他の面での協力をひきつづき積極的につよめるとともに、人民のあいだでプロレタリア国際主義の教育をひきつづきつよめてゆくであります。

帝国主義者と各国の反動派は、もともと各国人民の団結をおそれており、とりわけ社会主義諸国の人民の団結をおそれています。近來、かれらは、さまざまに卑しい手を考えだし、中国とソ連というこのふたつの最大の社会主義国間の友誼に水をさそうとたくらんでいます。かれらは、中ソ両国と社会主義諸国の友好団結を敵視しています。なぜなら、こうした友好団結が人類の平和事業と進歩の事業をまもる強大なとりでだからであり、それが全世界の人民に有利

であり、全世界の平和に有利であつて、ただ帝国主義侵略者と各国の反動派にとつてのみ不利だからであります。けれども、中ソ両国とすべての社会主義国の友好団結の鉄のとりでは、共同の利益と共同の理想を土台としてきずかれたものであつて、なにびともうち破ることができないものであり、永遠にうち破ることのできないものであります。敵がこれをうち破ろうとすればするほど、全世界の人民に、これが人類のかがやかしい前途のたよりの綱であることをいっそう認識させるだけのことであり、全世界のいっそう多くの人民をこのとりでのまわりに結集させるだけのことであります。

社会主義国は、終始一貫して、全世界の人民と平和を愛するすべての国々の、平和をまもる努力に声援をおくり、すべての被圧迫民族の、侵略に反対し、植民主義に反対する闘争に声援をおくり、あらたに独立した国々の、民族の利益をまもり、民族経済を発展させる事業に声援をおくつています。侵略勢力がますます制約をうければうけるほど、平和の事業がますます保証されることになる、これはきわめてあきらかなことであります。

この数年らい、民族独立運動はいよいよ高まりをみせ、帝国主義の植民地制度はいま崩壊を

つづけています。アジア、アフリカおよびラテン・アメリカは、かつては帝国主義の後方でしたが、こんにちではすでに侵略反対と植民主義反対の前線になっています。アメリカ政府のスポークスマンでさえ、現代植民主義の支柱であるアメリカ帝国主義は「真正正銘の旋風のなか」におかれているということをみとめています。帝国主義がかつてエジプトにたいする侵略とシリアにたいする威嚇で恥ずべき失敗をなめたのとまったく同様に、一九五八年には、帝国主義のインドネシアにたいする轉覆活動、レバノン、ヨルダンにたいする武力侵略がこれまた手いまい敗北をこうむりました。イラクの民族革命運動は、帝国主義と国内反動派のいく重もの圧迫をつきやぶつて、かがやかしい勝利をおさめました。長期にわたつて帝国主義のために奴隷化され、略奪されてきたアフリカ人民は、いま急速にめざめつつあります。アフリカ大陸には新しい独立国が数多くあらわれました。英雄的な戦いをつづけているアルジェリア人民は、すでに自己の政府をうちたてました。コンゴ、カメルーン、ニヤサランドおよびアフリカのその他の地区の被圧迫民族の、自由と独立をめざす闘争は、力づよい発展をつづけています。アフリカ人民がふたたびアフリカ大陸の主人公となる日は、いよいよまぢかに迫つてきています。

あります。ラテン・アメリカでは、民族独立運動と、民主をかちとり、独裁に反対する闘争とがひとつにむすびついています。キューバ人民は、長期にわたる武装闘争をへてアメリカ帝国主義が手なずけてきたバチスタ独裁政権をついにくつがえしました。これは、ラテン・アメリカの民族民主運動の新しい高まりをしめすものであります。

帝国主義の植民勢力がみずからすすんで歴史の舞台から身をひくということはありえないことですし、民族の独立をかちとり、これをまもる闘争が順風に帆をあげてすすむということもありえないことであります。帝国主義の植民勢力は、あたらしく独立をかちとつた国にたいする支配をひきつづき保持するか、あるいは回復しようとしてつとめています。かれらは、ちよくせつ武力による威嚇や武力による彈圧をおこなうほか、軍事プロックをつくりあげ、軍事条約をむすび、軍事基地をもうけ、経済侵略をつよめ、武力によるクーデターをくわだて、轉覆活動を組織しつづつあります。とりわけ注意すべきことは、さいきん、帝国主義があらゆる手をつかつて、これらの国々の内部の団結を破壊し、これらの国々の相互の団結を破壊し、これらの国と社会主義国との団結を破壊し、これによつて、各個に撃破し、分割して支配するという目

的をとげようとしてゐることです。したがつて、民族の独立をかちとり、これをまもろうとするすべての国々は、完全な勝利をうるためには、帝国主義の武力干渉と侵略をうち破るだけでなく、帝国主義のさまざまな陰謀や詭計をもたたきつぶすことが必要であります。

中国人民は、世界における帝国主義反対、植民主義反対、侵略反対、干渉反対のすべての闘争に一貫して同情をよせています。なぜなら、われわれの国家はつきさきごろまでは帝国主義の侵略をいやというほど経験してきた半植民地でありましたし、また、いまでも帝国主義の勢力がわが国の領土台湾に盤踞しているからであります。われわれは、アジア、アフリカ、ラテン・アメリカのすべての民族独立運動にたいして、われわれの力のおよぶかぎりの支持と援助を喜んであたえるつもりであります。この数年らい、アラブ民族の反帝闘争のなかで、われわれは終始アラブ諸国民の側にたつてきました。さいきん、アラブ民族独立運動には、ある種の複雑な状況があらわれています。アラブ連合共和国の権力をにぎっているいちぶの人物がイラク共和国を攻撃し、さらに、アラブ諸国民の偉大な友であるソ連をも攻撃したのであります。こうした行動はアラブ民族の独立の事業に不利であり、したがつてアラブ諸国の人民の同

情をえられないことはきわめてあきらかであります。われわれは、アラブ民族のすべての友とおなじように、アラブ民族の独立の事業がつきあたつているこの困難を克服する方法が発見され、アラブ民族をおとしいれよつとする帝国主義者のあくどい陰謀が実現できないようになることを希望するものであります。

わが国は、アジア、アフリカのあらたに独立した一連の国々と良好な外交関係を發展させています。インド、インドネシア、ビルマ、カンボジア、セイロン、ネパール、アフガニスタン、それからいくつつかのアラブ諸国とアフリカ諸国は、国際事務のなかで、平和・中立の政策をとつています。かれらは、戦争に反対し、侵略的な軍事ブロックにひきいれられることをこばんでいます。帝国主義の侵略政策と戦争政策に反対する共同の闘いのなかで、平和共存の五原則とバンドン会議の十原則をまもる共同の努力のなかで、わが国はこれらの国々とひろく友誼をうちたてました。われわれは、この友誼をひじょうに貴重なものとみなしており、また多くの友好的な国々が国際事務のなかでわが国を支持してくれていることに厚く感謝してまいります。一九五八年いらい、わが国は、イエーメン、ビルマ、インドネシア、アラブ連合、セイロ

ン、チュニジア、モロッコ、イラクなどの国々とあい前後して経済・貿易関係と文化協力をつよめる協定を締結し、また、その他のいちぶのアジア・アフリカ諸国との友好往來を拡大しました。東南アジアの多くの国々は、わが国と地続きであるか、またはきわめて近い距離にあります。わが国はこれらの国々と共同の利益をもつており、平和的に解決しえない紛争というものはありません。したがって、われわれは、これらの国々とアジアの平和地域をつくることができるのであり、またすでにつくつているのであります。われわれは、この平和地域が恒久的に存続するとともに、全アジアにまでひろがることをのぞんでいます。

アメリカ帝国主義は、多くの東南アジアの国々とわが国との関係に水をさし、これらの国々にたいする自己の侵略活動をおおいかくすため、わざとデマをとばし、わが国が東南アジアの隣国の「おそるべき脅威」になるであろうなどといつています。アメリカ帝国主義に身を賣つたユーゴスラビア修正主義グループは、社会主義諸国の団結に水をさす活動に失敗したのち、こんどはアジア・アフリカ諸国とわが国およびその他の社会主義国との友好関係を破壊しようとやつきになつています。しかし、こうした離間挑発はすべて、失敗するにきまつているので

あります。周知のとおり、わが国はこれまでどの隣国の領土をも侵したことはなく、どの隣国の内政にも干渉したことはありません、こんども永久にそうであります。ビルマに逃げこんだ国民党の残党はこの十年らい、たえずわが国の国境をさわがせ、わが国の安全を脅かしていますが、こうした状況のもとでも、わが国はただ国境の守りを厳密にしているだけであつて、あいかわらずわれわれの友好的な隣国ビルマ政府がみずから処理するのをしんぼうづよくまつているのであります。わが国といくつかの東南アジアの国々とのあいだの未確定国境線の問題や海外の華僑の国籍についての問題は、かつて挑発者の宣傳のタネにされてきました。しかし、周知のように、わが国といくつかの隣国とのあいだの未確定の国境線は、多くの歴史的な原因、なによりもまず帝国主義の長期にわたる侵略によつて生じたものであります。わが国は一貫して五原則にもとづき、平和な話し合いをつうじて、関係国と合理的にこの問題を解決することを主張しています。この問題が解決をみるまでは、現状を維持し、帝国主義の離間挑発の陰謀が実現できないようにすることが双方の利益に合致するとわれわれは考えています。華僑の問題については、わが国政府は、一貫して海外の華僑にたいし、居留国の法律と習慣を尊重

し、その地の政治活動に参加せず、その地の人民の経済発展を援助することにとめるようすすめています。華僑が自発的意志の原則によつて居留国の国籍をえらぶことについても、わが国政府はこれに賛成し援助する態度をとつています。東南アジアの国のなかには華僑排斥の誤つた政策をとつている国もありますが、これはまづたく帝国主義のデマ、挑発の悪だくみにひつかかつているのであります。われわれは、こうした現象があらためられ、華僑の正当な利益が保護されることをのぞんでいます。このほか、帝国主義はまた、わが国が東南アジアでいわゆる「ダンピング」や「経済拡張」といつたことをやっているとさかんに宣傳しております。けれども、周知のように、社会主義国はもともと「経済拡張」とか、「ダンピング」とかを實行する必要がまづたくありません。わが国の国内市場はきわめてひろく、わが国の資本主義国にたいする輸出入額は資本主義世界の輸出入総額の千分の五にすぎず、わが国の東南アジア諸国にたいする輸出入額はこれらの国の輸入額の百分の一にすぎません、「ダンピング」とか、「国外市場の争奪」とかいつたことはたんで問題にならないのであります。もちろん、わが国とこれらの国々とのあいだには、自発的な意志と平等互恵の原則のもとに、経済協力を発展さ

せる可能性が存在しています。こんご、われわれは、こうした双方にとつて有益な協力をひきつづき発展させてゆくことでありましょう。

帝国主義者は、つねにあらゆる外国の内政に干渉することに忙しく、全地球はおろか月さえもおのが武力の支配下におこうとバタバタしています。ところが、かれらは自分の家のきりまわしの方はとんとうまくやれないでいます。帝国主義国はいま経済危機の襲撃をうけているのであります。かれらの相互間の衝突は表面化しつつあります。帝国主義諸国は、なんらかの妥協策をみつけたして、かれらのあいだの矛盾をしばらくやわらげようとつとめてはいますが、しかし、かれらの矛盾はどうしても調和しえないものであつて、資本主義発展の不均衡の法則がこの矛盾をますます尖鋭化させており、かれらが四分五裂へむかうこの全般的な趨勢はどうしてもさけられないのであります。暗澹とした混乱した情景が帝国主義陣営の全体をおしついでおり、西方のブルジョアジーはもはや明日にたいする信念を喪失してしまつているのであります。

社会主義国は、資本主義国との平和共存、平和競争を一貫して主張しています。この四年ら

い、ソ連、中国、その他の社会主義国は、国際情勢の緊張をやらげ、世界各国人民の平和と安全を保障するためにうまずたゆまず努力をつづけ、軍縮、原子兵器および水素兵器の実験禁止、東西の政府首脳会談の開催、ヨーロッパおよびアジア・太平洋地域における非核武装地域の設置、集団安全保障体制の確立などの重要な平和提案をおこないました。社会主義国のこうした平和のための努力と提案は、全世界の平和を愛する国々と人民をふるいたたせ、国際情勢を緩和の方向へとおしすすめる決定的な要素となつていきます。しかし、帝国主義の好戦分子一味は逆に一貫してこれらの平和提案に反対しており、かれらは新しい戦争によつて歴史発展の車輪を逆轉させようとたくらんでいます。北大西洋条約ブロック、バグダッド条約ブロック、東南アジア条約ブロックはいいかかわらず執拗な活動をつづけています。アメリカはひきつづき全世界にその軍事基地網をひろげ、ひきつづき原子兵器と水素兵器を製造するほか、これらの兵器をもつて一連の国々の軍隊を武装させています。ゆゆしい戦争の危険はいまなお存在しているのでありますから、全世界の平和を愛するすべての力はひきつづき警戒心をたかめて平和をまもり、戦争に反対しなければなりません。帝国主義陣営の内部でも、頭脳のわりあい

にはつきりしているひとはすでに認めはしめていますが、社会主義陣営が空前に強大なものとなり、各国の広はんな人民がだんこ戦争に反対しているという条件のもとでは、新しい世界戦争をひきおこすことはけつして帝国主義に有利な結果をもたらすものではなく、それは反対に、帝国主義ぜんたいの滅亡と世界的な範圍における社会主義の勝利をはやめるだけであります。

アメリカ帝国主義は、ドイツと日本の軍国主義の復活にとりわけ力をそそぎ、ヨーロッパとアジアにおけるこのふたつの古い戦争策源地をつうじて国際情勢の緊張をつよめようとねらつています。このことは、全世界の平和を愛する国々と人民のきわめて大きな注意をひかないわけにはゆきません。

アメリカ帝国主義は、戦後のながい期間、ドイツの分裂と西ドイツの軍国主義の復活という政策を一貫してとつてきました。ヨーロッパと世界の平和にたいする脅威をとりのぞき、ふたつのドイツが直接はなしあつてドイツ人民の祖国統一という民族的任務を解決するのを促進するため、ソ連とドイツ民主共和国は一連の合理的な提案をだし、そのうえ、うまずたゆまず努

力をつづけてきました。さきごろ、ソ連政府はまた、西ベルリンの占領制度をおわらせ、西ベルリンを自由都市にするという提案と、関係諸国が講和会議をひらいて、対独平和条約を討議し、締結するという提案をおこないました。わが国政府は、ソ連政府のこれらの提案を支持します。ソ連政府の一貫した努力と全世界の平和を愛する国々と人民のつよい要求によつて、米、英、佛三国は、外相会議と政府首脳会談の開催についてのソ連の提案にやむなく同意しました。われわれは、これらの会議がすでに機熟した国際問題、なによりもまず対独平和条約の問題とベルリン問題の解決に役だち、ひいては国際緊張の緩和のため道をひらくことをぞむものであります。

東方では、アメリカ帝国主義は、一貫して日本軍国主義の復活をたすけています。日本の独占資本グループもまた、アメリカにたよつてその潜在的帝国主義の野心を実現しようとならつています。さいきん、岸信介政府は、またもや日米「安全保障条約」の改定を大重で準備し、アメリカとの新しい軍事的な結託をすすめるとともに、原子兵器で日本軍隊を装備しようとならんでいます。このことは、アジア諸国の安全、とりわけわが国の安全にたいし、ゆゆしい

脅威をうみだすものであります。中国人民は、日本人民がアメリカの支配からぬけだし、平和、中立の政策をとり、日本を独立、平和、民主の国にしようとする正当な願いを一貫して支持しています。中日両国関係の正常化を促進するため、わが国政府は、過去のことはとがめないで、日本の中国侵略戦争中のほとんどの戦争犯罪者を寛大に処理するとともに、日本居留民の送還、両国の民間貿易の展開および両国人民の友好往來にたいして積極的な協力と援助をあたえてきました。第四次中日民間貿易協定は、とりもなおさず、わが国政府のそうした協力と援助のもとに数々の障害を突破して昨年の三月五日に調印されたものであります。ところが、岸信介政府は当然の保証をあたえることをこぼみ、そのため協定の実施を不可能にしてしまいました。昨年五月、岸信介政府の放任のもとに、わが国の国旗を侮辱する事件が長崎でおこりました。昨年十月、わが国の人民解放軍が金門を砲撃したのち、岸信介じしんがまたしてもおぼつばらにわが国を「侵略者」などと中傷し、中国人民に台湾を解放させることはできないなどとわめきたてました。このため、中日関係は、ほとんど完全に断絶の状態におちいつてしまったのであります。岸信介政府のこうした反動的な政策は、日本人民のきわめて大きな憤

激をひきおこしました。げんざい、岸信介政府は、日本人民の圧力に対処するため、やむなく口先では中日貿易の回復をのぞむといっていますが、しかし実際には、ひきつづきアメリカに追随し、中国を敵視し、「二つの中国」という陰謀をもてあそび、ひきつづき中日関係の正常化を妨害し、そのため両国関係の改善と両国の貿易の回復をのぞむ中日両国人民の願いをこんにちにいたるまで実現できないようにしているのであります。中国人民と日本人民の利益は一致しています。中国人民は、日本軍国主義の復活を座視することができませんし、岸信介政府がひきつづき中国を敵視する政策をとることも容忍することはできません。中国人民は、日本人民が両国人民の友好関係を發展させるためにはらつてゐる大きな努力を歓迎します。われわれは、さいきん日本共産党と日本社会党の代表団があいついで中国を訪問したさい提出した、中日関係を改善し、中日国交を回復することについての一連の主張はまったく正しいものであると考えます。われわれは、日本人民がついにはあらゆる障害を突破し、中国人民と平和・友好関係を發展させてゆくものと信じています。

アメリカ帝国主義は、日本軍国主義をいちだんと復活させると同時に、東アジアにおけるその侵略と戦争準備の活動をつよめました。さいきん、アメリカは東南アジア条約ブロックの加盟国をかきあつめてウエリントン会議をひらきましたが、これは、東アジア地域で新しい侵略と轉覆活動をたくらみ、新しい緊張情勢をかもしたとともに、東南アジア条約ブロックのアジア加盟国にたいする支配をいつそうつよめるためのものにほかなりません。アメリカ帝国主義は、極力ベトナムの統一をさまたげ、南ベトナムでの軍事的配備をつよめ、ラオス当局をそのかしてジュネーブ協定を破棄させ、ラオスとその軍事基地にかえようとねらつています。アメリカは、その支配する国を利用して、カンボジア王国にたいし露骨な轉覆活動をおこなつています。昨年、中国人民志願軍が主動的にぜんぶ朝鮮から引揚げたのちも、アメリカ帝国主義は南朝鮮からその侵略軍を撤退させることをこばむばかりが、ますます凶にのつて核兵器とロケット兵器をふくむ大量の軍事装備を南朝鮮へ送りこみ、李承晩一味が朝鮮休戦協定の全面的な破棄をわめきたてるのを支持しています。東アジア地域におけるアメリカのこうした侵略活動は、ベトナム民主共和国、朝鮮民主主義人民共和国、中華人民共和国の安全ならびに東アジアの平和にゆゆしい脅威をあたえています。ジュネーブ協定と朝鮮休戦協定の関係国とし

て、われわれは、アメリカがこれらの協定を破壊し、その侵略拡大の陰謀をとげることを絶対に許すことはできません。われわれは、平和共存の五原則にもとづき、すべての隣国と友好的な善隣関係をうちたて、これを発展させてゆきたいと願っています。われわれは、東アジアと太平洋地域のぜんたいに非核武装地域を設置し、平和地域を設置することを主張します。われわれは、これが東アジアおよび太平洋諸国の人民の根本的な利益に合致するものだと考えています。中国は、なにびとにも脅威をあたえようとは思っていないし、なにびとにも損害をあたえようとは思っていません、なにびとにたいしてもそのえらんだ社会・政治制度をかえるよう要求してはおりません。しかしながら、われわれは、アメリカ帝国主義に迫随してわが国を敵視し、わが国を脅かしているものにはたいしては、もしもかれらがそうしやり方をあくまでもつづけるなら、そのために生じるいつさいの結果はかれらがおうべきであるということもこれまた一言注意しておこうと思っております。

中国は、すべての国と平等な外交関係をうちたてたいとのぞんでいます。いま、中米兩國は外交関係をもたぬばかりか、その関係はきわめて悪いのであります。全世界に知れわたつてい

ますように、こうした状態をうみだした責任はけつしてわれわれの側にはありません。われわれは、アメリカにおしかけてのさばりかえつたり、アメリカを封鎖したり、その領土を占領したり、ふたつのアメリカをでつちあげたりしたことはいちどもありません。世界にはただひとつのアメリカがあるだけでありますし、それと同様に、世界にはただひとつの中国があるだけであります。台湾は中国領土のきりはなすことのできない一部分であります。われわれは、かならず台湾、澎湖、金門、馬祖を解放します。台湾地域のアメリカの全武装力はかならず撤退しなければなりません。中国の領土を分割し、「ふたつの中国」をつくる陰謀は、すべて中国人民の絶対に許しえないものであります。この原則からして、わが国と外交関係をうちたてたいとのぞむ国はすべて、蔣介石一味とのいわゆる外交関係をたたなければならず、また国際事務のなかでわが国の合法的な権利を尊重しなければなりません。われわれは国際組織と国際会議のなかで他の国々と連繫をとり協力をすすめてゆきたいとのぞんでいます。しかし、およそ「ふたつの中国」という局面があらわれる可能性のある国際的活動には、われわれはぜつたんに参加しません。中国人民が世界各国の人民と友好関係をたもち、発展させる道は、ふさぐこ

とのできないものであります。アメリカ帝国主義者とその追隨者が「ふたつの中国」なるものをつくる芝居は、アメリカの「中国不承認」政策なるものと同様に、かれらを袋小路へつれてむことができるだけであります。

X

X

X

代表のみなさん！ われわれの事業にとつて、国内面であると国際面であるとを問わず、情勢はいずれも有利であります。われわれの事業は、どの方面でも繁栄にむかい、快速の前進をつづけています。これは、われわれの事業が正義の事業だからであり、広はんな人民の支持をうける事業だからであります。

われわれの国家は、今年の十月一日にその光榮ある十周年をむかえようとしています。われわれは、この十年らしい發展をかえりみますとき、だれしも胸中、歓喜と確信にみちあふれるのであります。われわれのあらゆる成果は、わが国の国を愛するすべての人民の一致団結した力によつてつくりあげられたものであります。これまで、われわれは団結しうるすべてのものと団結してきました。こんごも、われわれはひきつづきそうするでありましょう。われわれの

このたびの大会は、一九五九年の国民經濟計画を採択しますが、この雄大な計画は全国のあらゆる力を動員して完遂する必要があります。われわれのこのたびの大会開催中に、中国人民政治協商會議全國委員會の會議が同時におこなわれています。われわれは、このふたつの會議が一九五九年の計画任務の完遂にたいし大きな貢獻をするにちがいないと信じています。われわれは、中国共産党と毛沢東主席の指導のもとに、大いに意氣込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設するという総路線にみちびかれて、しつかりと団結し、一九五九年の計画を完遂、超過完遂する積極的な行動をもつて、われわれの偉大な祖国——中華人民共和國の建国十周年を迎えようではありませんか！

周恩來 政府の活動報告

1959年5月 初版発行

出版者 外文出版社

中華人民共和國

北京阜成門外百萬莊

編号：(日)3050—214

